

ナイトスイミング

弦卷 啓太

登場人物

男 1	サルタ	旅行会社社員。
男 2	カモワケ	宇宙船添乗員。
男 3	ミシマ	政治家。
男 4	ムトウ	宇宙船操縦士。用務員。
男 5	タケミナ	中学生。
男 6	ヤマヒコ	秘書。
女 1	オクヤマ	科学者。
女 2	エノモト	教育実習生。
女 3	サムカワ	担任教師。
女 4	アスハ	中学生。
女 5	イスルギ	中学生。
女 6	ハチマン	中学生。
女 7	ククリ	中学生。

●プロローグ

客席の明かりが消えると、しばし暗転が続く。

声（男1＝サルタ）　だから嫌だと言ったんだ。

明かりに照らされて男1現れる。

男1は不安定な姿勢で回転している。

男1　そもそも、理不尽な話だった。「お客様に新たな感動を与える、一生の思い出に残る旅をご提案します。旅先の地で出会うのは、新しい自分」。それがウチの会社のキャッチコピーだ。だから、他の会社とはひと味違う旅行プランを提示すること、それが重要なことは充分に分かっている。だけど、俺はもともと歴史的遺跡を巡る「ノスタルジック・ツアー」部門の担当だった。海の底に沈んだ帝国の跡地や、砂漠に吞まれた文明を調査、地殻変動で大地に沈んだ宮殿や都市の遺跡を発掘し、新たな観光場所として整備を整え、我が社のプランに組み込むこと、それが仕事だ。つまり、こんな宇宙に放り出される筋合いは無かったんだ。一日のことだった。

男2、現れる。男2は回転していない。

男2　あのさ、明日からの調査なんだけど、ルートを変更しても構わないかな？

男1　（回転しながら）え？ どうしてですか？

男2　秋山のヤツが風邪引いたって。

男1　風邪？

男2　うん、風邪。だから変わりに秋山のコースを担当してもらえないかな？

男1　え？ でも僕のコースはどうするんですか？ 地中海に沈んだヴェニスを巡る、海底ツアーの段取りを組む予定だったんですが。

男2　あ、それは俺が行く。

男1　え？

男2　俺行くから大丈夫。

男1　ちよっと部長。

男2　と言うことで、頼むわ。

男1　嫌ですよ！ 秋山のコースって、

男2　宇宙だよ。

男1 知ってますよ！

男2 大丈夫だって。銀河系コースだから、そんな遠くまで行かないし。せいぜい天王星くらいだよ。

男1 無理ですよ。僕、宇宙には行かない、て条件で就職してるんですよ。

男2 不況でそうも言ってもらえなくてさ。

男1 部長、

女2、入ってくる。

女2 部長、お時間です。

男2 分かった。だからさ、頼むよ。大丈夫だって、時代は進化してるんだ。安全性だって20年前とは比較にならない。割と簡単なコースだし、今回だけ。な？

男1 でも、

な、頼む。

男2 部長、

男2 今行く。じゃ、そう言うことで。後で詳しいことメールしておくから。

男1 一人で行くんですか？

男2 え？

男1 地中海、一人で行くつもりですか？

男2 いやいやいや。なに言ってるの？一人に決まってるじゃない。

男1 つれてかないでしょうね。まさかそのために、

男2 何を言ってるんだ。そんな公私混同を俺がするか！

男1 奥さんにバレたんじゃなかった

男2 関係ないよ！全く！そう言う下衆な勘ぐりはやめろ！

女2 部長、

男2 うん、今行く今行く。じゃ、そういうことで。このお返しはちゃんとするから！

頼む！

女2、男2、去る。

女2 (去りながら) 大丈夫？

男2 大丈夫大丈夫。あ、プレゼント、何が良い？

女2 (遠くを見つめ) 思い出、かな。

男2 謙虚なヤツめ。

二人、消える。

男1 完全にはめられた。そうして、気の進まないまま出発の日を迎えた。

次々に人が現れ、

そのままそこは宇宙船となる。

男1は乗船している旅行者となる。

●シーン1

遠い未来。そこは観光用宇宙船の客室。と言っても、現代の旅客機と何ら変わりがないようにも見える。それぞれの位置で曖昧に機体は表現される。
全ての登場人物(男2〜5、女1〜7)がいる。

男4 えー、間もなく当機は宇宙船「インターセプター」とのドッキングのため、15分ほど停止致します。インターセプターが当座表に到達するまでのしばらくの間、窓の外をご覧になってお過ごし下さい。

女4 お疲れ様です。当機は当座表で15分ほど、ドッキングのため停止致します。しばらくのあいだ、シートベルトをはずし、ご自由にお過ごし下さい。お飲物はラウンジでご用意しております。現在、右手の窓からは土星が見えております。今は非常に珍しい土星の環の上で踊る「土星ゴリラ」が確認できます。ぜひ、この機会にご覧下さい。

女3〜5 (歓声)

女7 (隣の男1に) 大丈夫ですか？

男1 あ、はい。

女7 顔色、良くないですよ。何か飲み物もらってきますか？

男1 いえいえ、本当に大丈夫です。

女7 でも。

男1 大丈夫です。

女7 酔ったんでしたら、窓から景色でも眺めた方が。替わります？

男1 いえいえ、結構です。外が見えた方がかえって緊張するんで。

女7 緊張？

男1 はい。

女7 宇宙船は初めてですか？

男1 随分昔に、一度。子供の頃です。

女7 私はしょっちゅう。もうすっかり慣れました。

男1 怖くないんですか？

女7 ちっとも。最初の頃は怖かったですけど。ちゃんと飛ぶんだらうか、無重力で身体がおかしくなるんじゃないか、流れ星とロケットがぶつかるんじゃないか、とか。

男1 そうでしょう。

女7 でも、ご存知かもしれませんが、ロケットが事故に遭う確率って、地上で交通事故に遭う確率よりずっと低いんですよ。

男1 知ってます。

女7 100万分の1だとか。100万回ロケットに乗って1回あるかないかなんですよ。

男1 でも、その1回が1度目に来るか、100万回目に来るかは分かりませんよね。

女7 (クス) 心配性。

男1 笑われても結構です。

女7 じゃあ、良いもの紹介してあげます。

男1 え？

女7 (パンフレットを取り出し) これなんですけど、

男1 なんですかこれ。

女7 宇宙守りです。

男1 宇宙守り、

女7 何の変哲も無いハンカチに見えるじゃないですか、でもこれを所持していると、宇宙で起こるありとあらゆる災厄から守ってくれるんです。

男1 そうですか。

女7 一つ50万円もしたんですけどね、宇宙の安全を買うと思えば安いものです。

男1 へえ。

女7 実は、ちょうどいま、もう一つ持っているんです。

男1 え？

女7 良かったら、購入しませんか？

男1 結構です。

女7 お安くしておきますよ。50万円したんですけどね、せっかくですから、2万円です。

男1 安くし過ぎでしょう。

女7 せっかくですから。

男1 せっかくですけど、結構です。

女7 (取り出し) ほら、よくお似合いになる。

男1 やめて下さい。

女7 2万円ですよ。

男1 2万円でもいりません。

女7 宇宙が怖くないんですか？

男1 もう怖くなくなりました。

女7 強がらなくて良いんですよ。

男1 本当にいりません。

女7 1万5千。

男1 値段の問題じゃありません。

女7 買った方が良いでしょう。宇宙は危険に満ちているんですから。ああ恐ろしい。

男1 あなたと一緒にいれば問題ありませんよね。あなたは安全なんだから。

女7 やめて下さい！ そんな！ 私のお守りをあてにするなんて。罰が当たりますよ！

そんな不遜な態度だと！

女5 あ、流れ星！

轟音。ロケットが揺れる。ベタな緊急警報。悲鳴。

女4 なに?!

ただいま、原因不明の衝撃波が当機を襲いました。立て直ちにエンジンに点火致します。乗客の皆さんはお席にお戻り下さい。

ほら！ このお守りの力です！

自慢しないで下さい！

まだ間に合いますよ、今なら3万円ですよ！

どさくさに値上げするな！

えー、乗客の皆さん、救命宇宙服を着用し、何かに捕まってお下さい。まもなく当機は限界を迎えます。

限界?!

限界まであと50秒。

早い！ 早い！

3、2、

男1 飛んだ！ 47秒くらい飛んだ！

爆発音。

碎け散るようにバラバラになる乗客達。流れていく乗客達。

砕け散ったかと思うと、突然そこは記者会見会場になる。

男1以外はその場で記者やカメラマンとなる。

男3（ミシマ）が会見をしている。

男3
えー、2時間程前に発生したロケットの爆発事故ですが、政府はただいま救援隊を現地の座標に派遣しました。現地到達時間は地球・日本時間で2242年5月8日7時、つまり翌朝7時頃になるかと思われます。ただ、現地ではロケットの破片が土星の環周辺で重力の影響によって不安定に運動を行っており、すぐに救援活動に入れるかは不明であります。

女3
事故の原因は判明しましたか？

男3
調査中です。ただ、観測によると他の宇宙船が近づいた形跡も、漂流物の飛来も確認されておりません。

女5
人為的な事故の可能性は？

男3
断定は出来ませんが、非常に少ないと考えてます。

女6
宇宙船の航行会社の責任は？

男3
調査中です。なにぶん、原因がハッキリしてませんので。

男2
宇宙開発を急ぐあまり、政府の安全対策の基準が緩くなっているんじゃないですか？

男3
事故が起きたことは非常に遺憾に思います。しかし、政府の基準は妥当であると思います。

男2
多数の被害者が出ていますが、それでも政府に責任は無いと。宇宙の危険性について国民や企業への周知は充分であるということですか。

男3
問題ないと思ってます。

男2
（記者陣に耳打ち） 自信家だね。

男5
乗客の名前は判明しましたか？

男3
のちほど、リストを公開します。

女1
（立ち上がり） 質問です。20年前の事件との関連性は？

問。

ざわつく周囲。

男5
20年前？

女3
ほら、中学生が犠牲になった、

女5
あれも原因不明だったんだよ。突然ロケットが爆発した。

男3 非常に類似したケースである可能性は、当局も把握しています。ですが現時点では何とも。

女1 生存者の捜索は、あの事件では二十四時間で打ち切られました。今回は何時間で打ち切る予定でしょうか？

女6 そうなの？

女3 いや、当時そんな発表は無かった筈だけど…。

女1 お答え下さい。

男3 …最後の一人まで、捜索します。

男1 「たーすけーてくれー」。

再び全員散る。

風の音が聞こえて来て、飛び散る皆のスピードも加速する。

音はただの風じゃなく、吹雪の音となる。

サルタ

エス・オー・エス、エス・オー・エス。こちらコードJSPA旅行会社プリアデス観光。社員ナンバー2828、サルタ。救援を求め。繰り返し。エス・オー・エス、エス・オー・エス。こちらコードJSPA旅行会社プリアデス観光。社員ナンバー2828、サルタ。救援を求め。現在、…どこかの惑星に不時着した模様。座標の特定を頼む。えー、惑星の名前は不明。とりあえず…寒い！ 気を失いそうになるほど寒い!!

やがて吹雪の隙間から、

タケミナ、イスルギ、ハチマン、ククリ、現れる。

遠巻きに眺めている四人。

イスルギ …人間だ。

ハチマン 本当だ、人間だ。

ククリ 宇宙人じゃない？

タケミナ 違うよ、ただのおじさんだ。

ククリ もしかして、助けに来てくれたのかな!!

タケミナ いや、エスオーエス、って言ってたからこの人も遭難したんだよ、きつと。

ハチマン 私達と一緒にだ。

サルタ …え？

タケミナ (近づき) 大丈夫ですか？

サルタ ……。

タケミナ 僕達の言ってること、わかりますか？

イスルギ あのロケットに乗ってたんですか？

サルタ ……どうして…。

タケミナ え？

サルタ どうしてお前達が？

タケミナ ……僕達も、不時着したんです。ロケットで。一ヶ月前に。

サルタ、タケミナに抱きつく。

タケミナ え!!

ストップモーション。

サルタ 旅先の地で出会ったのは、かつて裏切った自分だった。

音楽。

溶暗。

●シーン2

ミシマ、オクヤマ（女1）、ヤマヒコ、現れる。

ミシマ 久しぶり。びつくりさせるなよ。いきなり立ち上がるから誰かと思ったら…。懐かしのクラスメートじゃないですか。何のサプライズ？

オクヤマ ……。

ミシマ ちゃんとエスコートした？

ヤマヒコ 三回ひっぱたかれました。

ミシマ あらあら。

オクヤマ あと二回ひっぱたけば良かった。

ミシマ …元気にしてた？

オクヤマ おかげさまで。

ミシマ 研究の方は？ マスコミの真似はいい加減やめて、専門分野に打ち込んだらいかがですか？

オクヤマ 随分強気に出て。

ミシマ え？

オクヤマ さっきの記者会見。

ミシマ どうやって潜り込んだ？ 記者会見は決められた報道の人間しか出入りできない筈だけど。

オクヤマ 色んなところに友達がいる。

ミシマ 友達、ね。…成長したなあ。

オクヤマ そっちこそ成長したじゃない。緊張しいで、すぐ赤くなって、人前で話すのが誰より苦手だった男の子の面影はみじんも無いわ。（悪意を込めた物まねで）問題ないと思ってます。」

ミシマ 用件は？ すぐにつまみ出すことも出来るんだぞ。

ヤマヒコ ええ〜。

ミシマ そこはさ、威厳もってハツタリかまさないよ。

ヤマヒコ 三回ひっぱたかれてから言っして下さいよ。

オクヤマ 小惑星が突然現れるの。

ミシマ は？

オクヤマ 事故現場の近くに、小惑星が突然現れる。事故のほんの数分前。

ミシマ 隕石ってことか？

オクヤマ ううん。もっと大きくて、重力も強い惑星。それがね、観測によると事故の数分前にいきなり現れる。彗星だと思ったんだけど、まったく軌跡が掴めない。いきなり現れるの。突然。

ミシマ なにがなんだか。

オクヤマ そう。なにがなんだか。見て、これが写真。事故のエリアの土星の環を拡大したところ。隕石の間の、この白い大きめの惑星。

ミシマ わからんなあ。

オクヤマ これ、あの時も現れるの。

ミシマ え？

オクヤマ あの事故の時も。確認した。これがあの時の画像。

ミシマ ……どういう現象？ 宇宙には突然現れる白い惑星があつて、そいつに当たつて宇宙事故が起きてるってこと？

オクヤマ ……どうやら。

ミシマ 20年前のあれも？

オクヤマ だったのかも。

ミシマ なにそれ。そいつらは何？ ワープでもして来てるの？

オクヤマ かもしれない。

ミシマ なにそれ。こわ。じゃあいきなり地球の側に現れる可能性もあるってことでしょ、そいつ。

オクヤマ かもしれない。

ミシマ オクヤマ先生。どういうことですか。頼みますよ、解明してよ科学者でしょ？

オクヤマ ……大気があるの。

ミシマ え？

オクヤマ この惑星、どうしてここに現れたのか、いつ現れたのかは分からない。でもね、分析の結果、どうやら、大気があるみたいなの。

ミシマ てことは？

オクヤマ ……生き物がある可能性がある。

ミシマ 始まった。そうやって科学者はすぐに「大気があるから宇宙生物がいる」って短絡的に。

オクヤマ 人間がいる可能性がある、って言ってるの。

ミシマ どうやって…(ハ)

オクヤマ 事故の生存者が、運良くこの星に漂着してたとしたら、生きていける可能性がある、てこと。

ミシマ まあ、そうだけど。助かる？ ロケットで墜落して。

オクヤマ で、これ。

ミシマ 今度は何の画像？

オクヤマ 今回の事故の乗客名簿。

ミシマ お前なあ、なんで持つてるんだよ！

オクヤマ 友達から借りたの！

ミシマ 宿題のノートじゃないんだぞ！……え？ これ、本物？

三人、消える。

●シーン3

ムトウ、現れる。追ってカモワケ。

カモワケ おかしいなあ。

ムトウ 方向音痴にもほどがあるだろう。どうしてもあの墜落現場に行こうとして、道に迷う。

カモワケ まっすぐ向かってるつもりだったんだけどなあ。いつの間にか曲がってたみたいだね。

ムトウ あんなはつきり煙が見えてたのに。

カモワケ そうか、煙を見て行けばよかったんだ。

ムトウ 何も無かったから良いけれど、子供達に何かあったらどうするんだ。

カモワケ 何かって？

ムトウ 爆発とか。

カモワケ 大変だね。

ムトウ お前さあ、

カモワケ サムカワ先生が悲しむ。大変だね、ムトウさん。

ムトウ 何を言って。

カモワケ 皆噂してるよ。

ムトウ 皆って？

カモワケ 子供達。

ムトウ 子供はそう言うもんだ。

カモワケ 火の無い所に煙は立たない。

ムトウ 立つよ。私はどうも思っていない。

カモワケ またまたく。

ムトウ 中学生だぞ、面白がってあること無いことはやし立てるだろう。そう言う年だ。

カモワケ ムトウさんもそうだった？

ムトウ カモワケもだろうか？

カモワケ 経験無い。

ムトウ …。

カモワケ あ、そうそう、道に迷った変わりにこんなもの見つけたんだ。あいつが乗ってた

ロケットのものじゃないかな？

カモワケ、何やら小さな破片を見せる。

ムトウ 何の破片だろう。

カモワケ 何かのメモリーにも見えるね。

ムトウ 調べてみよう。

カモワケ ほめてよ。

ムトウ よくやった。

カモワケ 大変だったんだよ、クレバスの中に潜って行って、随分深いところで見つけたんだから。

ムトウ 人は？ いたか？

カモワケ いたいた。

ムトウ そうか…。何人くらい？

カモワケ 分かんないね。皆バラバラになっていて、氷の中であちこちに埋まっていたから。つないだら二、三人にまとまるのかも。

ムトウ そうか。

カモワケ でも安心して、バラバラの破片だったけど、あれは大人の身体だった。あの子達のお友達じゃないよ。

ムトウ 本当か？

カモワケ …多分。

ムトウ どっちにしても、見つけたことは内緒にな。知ったら、あの子達は自分で確認しにいきたがる。

カモワケ 氷のクレバスの中にまで？ 大人だって死ぬかもしれないのに？

ムトウ 後先考えられる年じゃない。

カモワケ 理解できないなあ。

ムトウ 本当に？

カモワケ 本当だよ。出来るわけないじゃん。

ムトウ だってさ、

カモワケ いい加減信じてよ。俺、アンドロイドだよ。

ムトウ …。

カモワケ なにその目。

ムトウ だってさ、

カモワケ なに。

ムトウ すごい、人間みたいだよ？

カモワケ 高性能って言うてよ。

ムトウ コンピューターで動いてるんでしょ、その頭の中。どうして道に迷うの!!

カモワケ 人間らしいでしょ？

ムトウ 計算だつて間違うし。

カモワケ あれは！心の準備ができてなかったただけだよ。

ムトウ 心って何だよ。

カモワケ 心くらいあるんだよ。

ムトウ コンピューターだろ!!

カモワケ 高性能なんだよ。

ムトウ じゃあ暗算。

カモワケ よし、

ムトウ 願いましたは、

カモワケ あー！ちよつと待つてちよつと待つて！

ムトウ 何、

カモワケ やっぱり紙と鉛筆、

ムトウ コンピューターだろ!! お前、

カモワケ 人間らしさを追求してるんだよ。

間。

ムトウ …くだらん。

カモワケ …どこかにいるのかねえ。

ムトウ いるさ。

カモワケ もう一ヶ月だよ。ほぼ。

ムトウ 私達がこうやって生きてるんだ。可能性はある。

カモワケ まあ、そうだよね。

ムトウ 待つてやらないと。

カモワケ それで？あの子達が見つけたおじさんってのは？

ムトウ 眠ってる。今、アスハが看病してる。

声（アスハ）

ぎゃあああああ〜

ムトウ ？

カモワケ そのアスハの声じゃない？

アスハ、入ってくる。

アスハ ムトウさん、助けて！

ムトウ どうした？

アスハ へ、変質者が。

ムトウ 変質者？

アスハ あのおっさんが目を覚ましたの。

ムトウ 何かされたのか？

アスハ いきなり抱きついてきたの！

カモワケ 変態だそりゃ！

サルタ、入ってくる。

カモワケ 近寄るな！ 変態！

サルタ 変態!!

ムトウ 落ち着いて！ 具合は大丈夫か？

サルタ 具合？

ムトウ どこかおかしくないか？

カモワケ 頭がおかしいんだよな変態だから！ 言われてみるとそう言う顔だ！

ムトウ やめなさい！

サルタ 違うんです、その子、

カモワケ 言い逃れする気か!!

アスハ 私は何もしてない！

カモワケ 被害者はこう言ってるぞ。

サルタ 違うんです、その子は、

ムトウ 大丈夫。落ち着いて、君は助かったんだ。

サルタ 助かった？

ムトウ 君は宇宙船の一部とともに不時着したんだ。

サルタ え…？じゃあ、ここは…。

ムトウ 我々もよく分かかってないんだが、惑星だよ。地球ではないが、人間が生きていける空気のある惑星だ。

サルタ …地球ではない？

ムトウ そう。

サルタ え？ここ、あれじゃないの？天国ってヤツじゃ、

ムトウ 違う、と、思う。

サルタ え？

カモワケ お前みたいな人間天国に居れる訳ないだろう！

アスハ そうだ！地獄行きだ！

ムトウ やめなさい、アスハ。

サルタ アスハ、アスハって名前なのか、(近づく)

アスハ いやああああ〜(逃げる)

カモワケ どう！（手刀）

サルタ う！

サルタ、気を失って倒れる。

ムトウ あ。

アスハ あ。

カモワケ あ。

三人、慌てて囲む。

ムトウ 大丈夫ですか!!

アスハ 泡吹いてる！

カモワケ しまった、思わずアンドロイドとしての馬力で！

ムトウ 来た時より危険な状態だ！運ぼう！

カモワケ 起きて！起きて下さい！！

三人、慌ててサルタを運び去る。

●シーン4

サムカワ、タケミナ、イスルギ、ハチマン、ククリ、現れる。
全員、本を読んでいる。

サムカワ じゃあもう一度、初めから。ククリ、

ククリ はい。(立ち上がり)メロスは激怒した。必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。

サムカワ はい、じゃあ次、ハチマン。

ハチマン (立ち上がり)きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里はなれた此のシラクスの市にやって来た。メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六の、内気な妹と二人暮しだ。この妹は、村の或る律気な一牧人を、近々、花婿として迎える事になっていた。結婚式も間近かなのである。

サムカワ はい。よろしい、次は、

アスハが入ってくる。

アスハ もうこっちに居ていいって。

サムカワ あの倒れてた人は？

アスハ 元気になったみたい。先生、あいつやばいおじさんだよっぱり。早くここから追い出した方が良くよ！

サムカワ どうしたの？ 何かされたの？

アスハ …言いたくない！

サムカワ 追い出すわけにはいかないでしょう。死ねって言ってるようなものよ？

アスハ いっぺん死んだ方が良くいのよ、あのおっさん。

ククリ 何かされたの？

アスハ …いきなり抱きついて来たの！

ククリ それだけ？

アスハ それだけって！

ハチマン タケミナもされたよな、そう言えば。

タケミナ うん。

サムカワ アスハ、ひよつとしたらそう言う文化の人なのかもしれないじゃない、怒っては
いけません。

アスハ 私達には私達の文化があります！これは、私の貞節の問題です！

イスルギ 貞節？

アスハ そう！

イスルギ 次々彼氏を取り替えてる癖に。

アスハ 取り替えてなんていません！

イスルギ じゃあ何なんだよ、先々月はアオヌマ先輩だし、先月はトヨタマ先輩って、

アスハ 私は真実の愛を探しているだけ。

イスルギ 安っぽい真実だなあ。

アスハ なによ！

サムカワ アスハ。イスルギもやめなさい。ちゃんとノートは見てましたか？ はい続きを
読んで、イスルギ。

イスルギ はい。…どこだっけ、

サムカワ ほら。

ハチマン ここから、

イスルギ メロスは、それゆえ、花嫁の衣裳やら祝宴の御馳走やらを買いに、はるばる市に
やって来たのだ。先ず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩い
た。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今は此のシラクス
の市で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく
逢わなかったのだから、訪ねて行くのが楽しみである。

イスルギの読み方はつたなく、何度もつかえる。

サルタとムトウが現れ、その様子を外から眺めている。

サルタ ……。

ムトウ サムカワ先生が、授業をしようって言うってね。学校のまねごとだよ。なんとかね。

サルタ ……。

ムトウ 不時着して一週間を過ぎた頃だ。ただ、救援を待っただけじゃなく秩序立てて、人
間らしく暮らそうってね。今までと変わりなく。幸い、食料は半年くらいは何と
かなりそうだし。

サルタ ……。

サムカワ はい、じゃあそこからタケミナ。

タケミナ

はい。「おどろいた。国王は乱心か。」「いいえ、乱心ではございません。人を、信ずる事が出来ぬ、というのです。このごろは、臣下の心をも、お疑いになり、少しく派手な暮しをしている者には、人質ひとりずつ差し出すことを命じて居ります。御命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。きょうは、六人殺されました。」聞いて、メロスは激怒した。「呆れた王だ。生かして置けぬ。」

サルタ 『走れメロス』

ムトウ そう。たまたま全員ノートを持っていたらしい。

サルタ …他の人は？

ムトウ どこかに生存者が居るのかもしれないけど、ここに居るのはこれで全部だ。あとこの子達の先生が一人居る。もうすぐ帰ってくるんじゃないか。

サルタ 何をしてるんですか？

ムトウ 探しにいつてるんだよ。ほら、この子達も一日一度このロケットの外に出かけてる。

サルタ …探しに。危険じゃないんですか？

ムトウ 危険だよ。この星は四六時中あんな吹雪でね。おかげで昼なのか夜なのか、星空が見えないんでここがどこなのかも分からない。ロケットの座標を測定する装置も上手く働かない。宇宙の迷子だよ。

サルタ ……。

ムトウ それでも、この子達は外に探しにいくのをやめようとしな。もうひと月近くなるのに。

サルタ ……どうして。

ムトウ 全部で、八人だったらしい。

エノモト、やってくる。

エノモト ただ今戻りました。

ムトウ お帰りなさい。ご苦労様。

エノモト ああ、気がついたんですか。

ムトウ エノモトさん、こちら、えーと、

サルタ サルタです。

エノモト 良かった！よく無事で。ロケット、突き刺さってましたよ。

ムトウ 全くだ。相当の強運の持ち主ですよ。

エノモト 怪我が無いようで何よりです。後で皆に紹介しますね。

エノモトが教室の環に加わる。

ハチマン お帰りなさい！

エノモト サムカワ先生、ただ今戻りました。

サムカワ お疲れ様。

ククリ 先生、どうでした？

エノモト (首振り) 残念だけど。

タケミナ 何も見つからなかった？

エノモト うん。

イスルギ なーんだ。

タケミナ 仕方ないよ、また明日行こう。

サルタ あの、

ムトウ うん？

サルタ いまは、いつですか？

ムトウ ああ、そうだったね。今は2222年9月4日。あんたのロケットの墜落があつたのは2日前の事だよ。

サルタ 2222年…。

ムトウ なにか、驚いた？

サルタ いえ、そう思っていました。

サムカワ ムトウさん、

ムトウ はい。

サムカワ (サルタに) こんにちは。

サルタ …こんにちは。

サムカワ この子達の引率で、まあここで皆の面倒をしています。サムカワです。

サルタ サルタです。

サムカワ サルタ、変わった名前ねえ。

サルタ はは。

サムカワ ムトウさん、良かったら入って頂きましょう。皆にも紹介したいわ。

ムトウ そうですね、それが良い。

サルタ え？ いや…、

サムカワ 皆、ご挨拶しましょう。

全員、サルタの方を向く。

サムカワ 春日中学三年五組の皆です。タケミナ、挨拶。

タケミナ はい。えーと、春日中学三年五組です。…こんにちは。

生徒達 こんにちは。

サルタ ……。

タケミナ クラス副代表のタケミナです。よろしくお願いします。

サルタ ……よろしく。

イスルギ (立つ) イスルギです！

ククリ (立つ) ククリです！

ハチマン (立つ) ハチマンです！

アスハ (立つ) やいなや座りながら早口で) アスハです。

サルタ ……。

ムトウ サルタくん、あなたも。

サムカワ お願いします。

サルタ えーと、旅行会社プレアデス観光、企画部、サルタです。

タケミナ はじめまして。

生徒達 はじめまして。

サルタ ……よろしくお願いします。

サムカワ じゃあ、サルタさんも空いてるところにお掛けになって。今国語の授業をしてたんです。一緒に読みますか？

サルタ いや、ぼくは、

エノモト どうぞ。休んで下さい。食事の準備が出来たらカモワケが呼びに来ると思うので。

サルタ じゃあ、

空いているところを適当に座ろうとするサルタ。

イスルギ (その隣にいた) ごめんなさい、ここは空いてないんだ。

サルタ あ、ごめん。

ククリ 別に良いじゃん、今だけだよ、イスルギ。
イスルギ 駄目だよ、ごめんなさい、約束なんだ。

タケミナ すみません、クラスメートの分なんです。

サルタ え？

エノモト すみません。いるんです。いないんだけど、いるんです。

イスルギ ここを見つけたとき、席が無いと可哀想だから。

サルタ …。

ハチマン とか言って、オクヤマに隣に来て欲しいだけのくせに。

イスルギ そんなことねえよ！

ククリ 純情。

サルタ え？

ハチマン こいつの好きな子の席なんです！

イスルギ やめろよ！

ククリ オクヤマって言うんですけどね！

サムカワ ほら、からかうんじゃないやありません。

サルタ え!! そうだったの!!

イスルギ は!!

サルタ お前オクヤマの事好きだったの?!

ククリ おじさん？

イスルギ おじさん、オクヤマの事知ってるの？

サルタ やめとけよあんな気の強い女、

イスルギ あいつの何を知って！

サルタ だってあいつかなり色んな男と、

と、サルタ周囲の目に気づき、

タケミナ サルタさん…？

サルタ え…あ、いや、

エノモト 溶け込もうとしてくれてるのよ、サルタさんは皆と！

ムトウ 気さくな人だなあ。

サムカワ さっそく、馴染んでくれたみたいね、このクラスに。

アスハ ふん、友達ぶっちゃって。

イスルギ 色んな男と、てどういう意味ですか？

サルタ いや、冗談だよ冗談、

イスルギ タケミナ？

タケミナ 何にも無いよ。

ククリ じゃあ、サルタさん、こっちに座ったら？

タケミナ そうですね、そっちへ。ずっと立っててもらうのも申し訳ないし。

そこはアスハの隣。

アスハ ちょっと！ やめてよ！

タケミナ なんでだよ、

アスハ ミシマの席に座らせれば良いじゃん！

タケミナ 空けとこうよ、そう言う約束だろ。

ククリ そうだよ。

アスハ 良いじゃんミシマなんだから。

サムカワ アスハ、やめなさい。

アスハ ……！

サルタ いや、皆、良いですよ。じゃあ、ここで、(と、空いてる箇所へ)

ハチマン ごめんなさい、そこもなんです。

サルタ あ、ごめん、誰かいるんだ。

エノモト ほんと、すみません、頑固で。

タケミナ スミヨシって奴の席なんです。

間。

タケミナ 三人ともクラスメートなんです。だから。

サルタ、空いている三つの席を見渡す。

サルタ スミヨシ…。

タケミナ ？

ハチマン 知ってるんですか？

イスルギ え？ ひょっとしてオクヤマの色んな男って、

サルタ いや、違うよ！ 違う違う！

ハチマン そんな必死に否定しなくても。

ククリ なおさら怪しい。

サルタ ないよ！ あんな女！

イスルギ あんな女？！

サムカワ ほらほら、もう良いから。サルタさん、そのシミヨシ君の席に座って下さい。皆も納得しなさい。授業を再開しましょう。じゃあ続きを読んで下さい。アスハ、

アスハ はい。(ノートを開く)

ククリ 見せてあげる。

サルタ ありがとう。

アスハ 「ただ、私に情をかけたつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えて下さい。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰って来ます。」「ばかな。」と暴君は、嘎れた声で低く笑った。「とんでもない嘘を言うわい。逃がした小鳥が帰って来るというのか。」

サルタ 「そうです。帰って来るのです。」

唐突にサルタ一人の空間となる。

サルタ メロスには必死で言い張った。「私は約束を守ります。」

徐々に空間が時間を越え、サルタの回想空間となる。
中学生のオクヤマ、現れる。

オクヤマ ごめんなさい！

サムカワ 何をやってたの？ オクヤマさん、

オクヤマ 新聞委員の取材が長引いちやって。

サムカワ どうせまた校長先生のところで遊んでいただけでしょう？

オクヤマ 違います！ 取材です！ 校長先生と謎の女性が密会してたと言う情報が。事実を確かめるのはジャーナリストの常識です！

サムカワ 取材を時間以内に終わらせるのもジャーナリストの仕事です。

エノモト ほら、続きをやりましょう。

ククリ じゃあ王様の台詞から。よーい、スタート。

ハチマン (王様役) はーはっはっは！ 馬鹿なヤツだ！ 友達なんぞを信用するから、こうして殺される羽目になるのだ。馬鹿な男よのう。人間なんてものを、友情なんてものを当てにするから。はーはっはっは。

イスルギ ハチマン、今日も乗ってるな。

タケミナ (セリヌンティウス) 王よ、まだ日は落ちてない。期限までは時間がある。

ハチマン それもあとわずか。もう貴様の命は風前の灯。ふふ憎かろう。恨めしかろう、あのメロスとやらのことが。実際、貴様も心の底では後悔しておるのであろう？

タケミナ そんなことは無い。私はメロスを信じている。

ハチマン ええい、強がりなヤツめ！

アスハ おお！ あそこを見ろ！

イスルギ 誰だアレは？ なんて汚い格好をしているんだ。

ククリ ちよっと待ってちよっと待って。

エノモト どうしたの？

ククリ ハチマン、ちよっと怖過ぎ。

ハチマン え？

ククリ なんか、鬼気迫るっていうか…。

ハチマン そう思ってたやりました。

ククリ うん、だけどね、

ハチマン やっぱ、この『走れメロス』って、王様の物語だと思っんですよ。

ククリ え？

ハチマン メロスとか、セリヌンティウスより、この王様が一番、なんていうか、「心の成長」が大きいと思うんですよ。だって、不信感のカタマリだった人間が、まあ言うなればニヒリズムの権化だった王様が人間を信頼するようになる、これって凄く変な変化ですよ。自分はその変化をしっかりと見せたいな、と思って。そうじゃないと、意味が無いっていうか。文化祭で『走れメロス』を上演する意義がないと思っんですよ。

ククリ あー、そう。

ハチマン はい。あれ？ 皆そう思ってると思っってたんですけど。

エノモト ……良いんじゃないかしら！ ハチマンがそう思うなら、そうやってやってみて！

ハチマン ですよ。

ククリ う、うん、分かった。じゃあ、もう一回同じ所から。よーい、はい。
ハチマン はーはっはっは！ 馬鹿なヤツだ！ 友達なんぞを信用するから、こうして殺される羽目になるのだ。

用務員ロボット（＝カモワケ）、現れる。

カモワケ （ロボットの）サムカワ先生、

サムカワ あら。皆、一旦やめて。

ハチマン あ！ ロボットだ！

ククリ わー！ 本当だロボットだ！

エノモト ロボットが働いてくれるなんて、すごい時代になったものね。

タケミナ 今は色んなところで実用化されてるんですよ。父さんの会社でもロボットが働いているって言ってました。

エノモト タケミナ君のお父さんの会社って？

タケミナ ロケットの航行会社です！

カモワケ サムカワ先生、体育館の裏で、生徒を発見しました。

サムカワ え？

カモワケ 入りなさい。

カモワケの陰に隠れるように、中学生の時のミシマがいる。

サムカワ ミシマ君、来てたのね。

ミシマ （うなづく）

サムカワ 偉いわ。ちゃんと来てくれて先生も嬉しい。

アスハ いいなあ〜学校に来ただけでほめてもらえるなんて。

サムカワ アスハ。

アスハ だって、私なんて皆勤賞なのに！

イスルギ 馬鹿は風邪引かないからなあ。

アスハ なによ、イスルギ！

ミシマ （しくしくと泣き出す）

ククリ あーあーあー、

ハチマン あーあーあー、

ククリ まーたアスハがミシマの事泣かす。

アスハ ちよつと、私は何もしてないでしょ！

サムカワ 大声出すんじゃないの。ミシマ君も、大丈夫だから落ち着いてね。誰も怒ってないから。

呼び出し音が響く。

サムカワ じゃあ、この時間はここまで。皆は次は何？

タケミナ 体育です！

と、飛び出していく生徒、追うエノモト、サムカワ、カモワケ。

立ち上がるサルタ。座ったままのオクヤマとミシマ。

音は鳴り続ける。

それはそのまま現在のサルタを呼び出す無線の音になる。

●シーン5

サルタ (無線機を取り出し) はい。こちらコードJ S A P、旅行会社プレアデス観光、サルタ。

オクヤマ つながった！

ヤマヒコ、駆け込んできてミシマの背後に控える。

ミシマ 何だその名前は。どうやら無事みたいだな。俺だ、分かるか？

サルタ ミシマか？

ミシマ 正解。いやいやいや、大丈夫か？ まさか本当に繋がるとはな。びつくりこいたよ。こっちは地球だ。

オクヤマ そんな事より聞く事があるでしょ。もしもし、私、聞こえる？

サルタ ……オクヤマか？

オクヤマ そう。良かった、やっぱり生きてたのね。よく無事で。

ミシマ オクヤマ先生自慢のお友達ネットワークでお前が不時着した星をレーダーで探索したら、運良くお前からの救難信号をキャッチした。持つべきものは友、だな。

サルタ オクヤマ、中学の時からやり手だったからな。

オクヤマ は？ どういう事？

ミシマ しかし、悪運の強い奴だよ。今度も助かるなんて。お前以外の生存者は？

サルタ ……いないようだ。今回は。

ミシマ そうか。今どこにいるんだ？ 宇宙船の船体の中か？ 残ってるロケットの機体はどのくらいある？ 帰るのに使えそうなエンジンは？

サルタ わからない。

ミシマ そうか、すぐに救援隊をそっちに向かわせる。なんだかかったいな星でな、お前がいるそこは。座標も安定しない、さらに天候が壁になって宇宙船が着陸できる隙間がなかなか無い。

オクヤマ 聞いて、その星はね、私達の時も現れた星なの。

サルタ え？

オクヤマ 20年前のあの時も、ロケットの近くに突然現れてる。だから、その星が事故の原因かもしれないの。私達の。

サルタ ……だろうな。

オクヤマ え？ 聞いている？

ミシマ　まあ、ちょっとだけ気を長くして待ってる、すぐ救援を送る。今度こそ、奇跡の生存者として表舞台に立つてもらおうぞ。

ミシマ、ヤマヒロに目で合図。ヤマヒロ、頷いて去る。

オクヤマ　ミシマ、あんたはまた、

ミシマ　当然だ。

サルタ　待ってくれ。

ミシマ　え？

サルタ　俺一人じゃない。

ミシマ　？ 他にも生存者がいるのか？

サルタ　いる。いた。

オクヤマ　え？

サルタ　ミシマ、オクヤマ。…生きてた。皆生きてた。

ミシマ　皆？

サルタ　三年五組の皆だ。

ミシマ　もしもし？

サルタ　皆生きてるんだ。あのときのまんまだ。アスハも、ククリも、ハチマンもイスルギも、タケミナも、サムカワ先生も、覚えてるか？ 教育実習できてたエノモト先生も、皆生きてるんだ。生きてたんだ。

ミシマ　おい、よく聞こえない、なに言ってる？

オクヤマ　信号が安定しない。

サルタ、皆を追いかけるように去る。

ミシマ　おい、おーい！ 応答しろ！ おーい！ コードJ S A P！ コードJ S A P！
……切れた。

オクヤマ　……生きてたって？

ミシマ　三年五組、って言ってたよな？

オクヤマ　どういうこと？

ミシマ　頭がおかしくなったのかな？ じゃないとすると、

オクヤマ　？

ミシマ 皆生きてたのかもな。あの星で。

オクヤマ そんな筈無いでしょ。

ミシマ どうして？

オクヤマ 私達三人とも確認したでしょ、事故現場の遺品を。

ミシマ した。

オクヤマ 皆の遺体を。

ミシマ 救命宇宙服ごしにな。

オクヤマ だったら、

ミシマ でもあいつは「生きてた」って。

オクヤマ 幻でも見てるのよ、きつと。幻覚作用を起こす磁場が発生してる可能性がある。

ミシマ なんなんだろうな、あの星。現れたり消えたり、俺達の人生につきまとして。ス
トーカー？

オクヤマ 気持ち悪い。人間みたい。

ミシマ 全くだ。気まぐれに現れて…。そうだよな。人間みたいだよな。

オクヤマ なに？

ミシマ もし本当にあの星に意志があるなら、もうそれは人間を越えて、神様なのかもな。

オクヤマ どんな神様。良い迷惑。気まぐれに殺さないでよ、人間を。

ミシマ でも、生きてたって。

オクヤマ 幻よ。あいつ、頭がおかしくなってるの。生きてる訳がない。

ミシマ 意外な反応。

オクヤマ え？

ミシマ 嬉しくないの？

オクヤマ 嬉しい？

ミシマ 生きてて欲しいんじゃないの？

オクヤマ …。

ミシマ 皆に。あれ？

オクヤマ …。

ミシマ 10年前、遺体や遺品の確認をとらされたとき、頑に認めなかったじゃない、お前。

時間が巻き戻る。

10年前。遺体安置所（みたいな場所）の待合室。

男2、現れる。

男2 金星からの移送船が発見したという事です。行きは存在してなかった宇宙船の一部を、地球へ引き返す途中に発見、回収しました。

オクヤマ 金星？

男2 はい。

オクヤマ どうしてそんなところに？ 私達は、火星へ向けて進んでいたのよ。

男2 なんとも…。偶然としか。

ミシマ そういうこともあるだろ。10年間宇宙を漂ってたんだ。

オクヤマ だったらもっと早くに発見されてる筈。

ミシマ まあそうだけど、

オクヤマ ミシマ、何か隠してるんじゃないや、

ミシマ 何も隠してないよ。

男2 発見した運送会社のロケット乗組員も驚いていました。レーダーに、突然現れたらしいです。ワープして来たみたいに。

ミシマ 嘘をつくなら、もっとまともな設定にするよ。

男2 では、ミシマ先生から、どうぞ。

ミシマ 行ってくる。

男2、去る。ついていくミシマ。

入れ違うように入ってくるサルタ。

サルタ おう…。

オクヤマ 久しぶり。

サルタ 久しぶり。…ミシマは？

オクヤマ 中に居る。

サルタ 見たのか？

オクヤマ 私はまだ。

サルタ そうか。

オクヤマ どうして返信くれないの？

サルタ え？

オクヤマ 何度も連絡したのに。

サルタ 悪い、ちょっと忙しくて。

オクヤマ 大切な件だったのに。

サルタ 分かっている。

オクヤマ ああの事故の真相を突き止めたくないの？ 悔しくないの？ あんな形でうやむやに終わらせられて。

サルタ 悔しいけどさ。

オクヤマ だったら、協力して。一緒に闘って。

サルタ 闘うって言っても。

オクヤマ 事件からちょうど10年で、今はマスコミも世間も注目してる。今がチャンスなの。

サルタ 何のチャンスだよ。

オクヤマ 真相を暴く。

サルタ …。

オクヤマ 気が進まないんだ。

サルタ だってさ。

オクヤマ だから連絡もなし。

サルタ …事故だよ。事故。不幸な事故だったんだよ。

オクヤマ ただの事故じゃない。

サルタ ただの事故だよ。

オクヤマ じゃあなんで私達だけ助かったの？

サルタ 知らないよそんな事、

オクヤマ おかしいでしょ、そんなの。

サルタ 奇跡でも起きたんだよ。

オクヤマ 政府の対応だっておかしかった。ロケットの破片、全部見つかった訳じゃないのよ。たった20パーセント。

サルタ そりゃそうだよ。

オクヤマ 搜索だっですぐに打ち切られたし、

サルタ でも、こうして今回見つかった訳だから、

オクヤマ 不自然じゃない、いくらなんでも。

サルタ オクヤマはさ、どうなりたいわけ。ただの事故じゃなかったら何なの？

オクヤマ え？

サルタ 誰かの陰謀だったら何なの？ どうしたいわけそれで。それでなにか解決するの？

オクヤマ …。

サルタ 事故だよ。ただの事故。

オクヤマ それで皆は死んじゃったの？ それだけの理由で？

サルタ そうだよ。皆それだけの理由で死んだんだよ。たまたまだよ。俺達がかたまたま生き残ったように、あいつらもたまたま死んだんだよ。

オクヤマ …。

サルタ 不幸な事故だろ。単なる。

オクヤマ …皆に申し訳ないと思わないの？

サルタ は!!

オクヤマ 私達には生き残った責任があるでしょ？

サルタ ないよ。

間。

サルタ ないよ。あるわけないだろ。

ミシマ、男2、戻ってくる。

ミシマ おおー。久しぶり。ちゃんと来たか。なんだよ、何度連絡しても返事一つよこさないで。

オクヤマ え？

ミシマ 再来月のイベントでこいつにも登壇してもらいたくてさ。でも何度連絡しても梨の礫だ。

サルタ お前にだけじゃないよ。

オクヤマ 再来月のイベント？

ミシマ 俺達の事故からちょうど10年だぞ。

オクヤマ …本気なの？

ミシマ もちろん。感動的にしないと。こうして、皆とも再会できた訳だから。

間。

サルタ 皆だったのか？

ミシマ 確認してくると良い。

オクヤマ (足早に去る)

男2 では、どうぞこちらです。

サルタ 俺は良い。

ミシマ そうはいかないだろ。

サルタ 遺体の確認の事じゃない。イベントの方。

ミシマ なおさらそうはいかないよ。奇跡の生き残りだ。

サルタ お前一人で充分だろ。

ミシマ せっかくクラスの皆が揃ったんだ。全員集合で行こうぜ。

サルタ 俺は、

ミシマ この一回だけだ。頼むよ。後は静かに暮らしてればいい。

オクヤマ (戻ってくる)

ミシマ 大丈夫か？

オクヤマ ちがう……。

ミシマ え？

オクヤマ あれは、皆じゃない。

ミシマ 皆だよ、イスルギ、ククリ、ハチマン、

オクヤマ 私は認めない。

ミシマ オクヤマ。

オクヤマ 認めない。

ミシマ お前、いい加減に、

オクヤマ (去る)

ミシマ おい、おい。…行っちゃった。いい加減、受け入れろよなあいつも。

サルタ …。

男2 では、どうぞ、ご案内します。

サルタ (行こうとする)

ミシマ スミヨシ、

サルタ (止まる)

ミシマ

一回だけだ。俺達にはさ、生き残ってしまった責任があると思わないか？

間。

サルタ、去る。ついで男2も。

暗転。

●シーン6

闇の中、衝撃音。冒頭と同じような非常警報が鳴る。
薄明かりの中、身を寄せ合う人々。

アスハ なに?!

ムトウ ただいま、原因不明の衝撃波が当機を襲いました。立て直ちにエンジンに点火致します。乗客の皆さんはお席にお戻り下さい。

カモワケ みなさん、落ち着いて下さい!

ククリ 先生!

サムカワ 皆落ち着いて! 席につかまって機長さんの言う事を聞いて!

ミシマ なになになに?!

エノモト ミシマ君、大丈夫だから! 立ち上がっちゃ駄目!

ムトウ えー、乗客の皆さん、救命宇宙服を着用し、何かに捕まって下さい。

タケミナ 皆聞いたか?! 救命宇宙服を着るんだ!

ハチマン どうやって着るのこれ?!

タケミナ ハチマン落ち着いて、

イスルギ 相当の衝撃だった。このロケット、やばいんじゃないか、

サムカワ そんなことないから。

エノモト スミヨシ君?

サムカワ スミヨシ君がどうしたの?!

エノモト 席に座っていません!

サムカワ スミヨシ君?!

エノモト 皆、スミヨシ君は?!

ククリ さっきラウンジに行きました。

エノモト 探してきます。

サムカワ いいえ、エノモト先生はここに居て。

エノモト 駄目です。サムカワ先生こそ皆と一緒に。

サムカワ エノモト先生!

タケミナ 僕行ってきます!

サムカワ タケミナ!

エノモト 駄目よ!

タケミナ 大丈夫です！ スミヨシが居るところ、大体分かってるし、すぐに見つけてきます！

サムカワ いけません！ タケミナ、席を離れちゃ駄目！

タケミナ 宇宙服来てるし、大丈夫です！（去る）

エノモト タケミナ君！

カモワケ 行けません！

サムカワ 生徒が居るんです！

カモワケ え？

サムカワ ラウンジに生徒が居るんです！

カモワケ …！ 見てきます！ 皆さんは絶対に席を立たないで！ 良いですね！

カモワケも去る。

やがて、轟音。

タケミナ スミヨシー！ スミヨシいるかー！

サルタ タケミナ！

タケミナ いた！ 大丈夫だったか、早く席に戻ろう。皆が待ってる。

サルタ 動けないんだ。

タケミナ え？

サルタ 足が、怖くて動かないんだ！

轟音。

ムトウ 皆さん、座席に座って前の背もたれにつかまって下さい。当機は間もなく限界を迎えます。

タケミナ スミヨシ、早く！

サルタ 駄目だ！ お前だけ戻ってくれ！

タケミナ 駄目だよ！

サルタ 良いから！ 俺の事は置いてってくれ！

タケミナ 早く！（引っ張る）

サルタ 駄目だよ、怖いんだ、動けないんだ！

タケミナ うるさい！

轟音。その弾みで引っ張っていたサルタとタケミナの位置が入れ替わる。

サルタ タケミナ！

タケミナ …早く戻れ、皆のところへ！

サルタ タケミナ、早くこっちへ！

タケミナ スミヨシ、

サルタ 何?!

タケミナ ……。

サルタ なんだよ?!

轟音。タケミナ、崩れる。

サルタ タケミナ！

カモワケ、現れる。

カモワケ 戻りましょう。

サルタ 嫌だ！ タケミナが！

カモワケ え？

サルタ あつちにタケミナが、友達が居るんだ！

カモワケ ！

ひと際大きな轟音。

カモワケ 戻りましょう！ もうここは無理だ！

サルタ 嫌だ！

カモワケ もう無理です！ 助かりません！

サルタ 嫌だ！ タケミナ！

次々に爆発する音。

全員、散り散りに散っていく。

サルタ 必ず助ける！必ず戻ってくる！

闇が訪れる。

サルタが一人残される。

サルタ 『走れメロス』を手にしている。「そうです。帰って来るのです。」メロスは必死

で言い張った。「私は約束を守ります。」

エノモト、入ってくる。

エノモト 大丈夫ですか？

サルタ え？

エノモト うなされてるようだったので。

サルタ ああ、いえ、大丈夫です。

エノモト すみません、子供達がなんだか騒がしくしてしまつて。

サルタ いえ。

エノモト 本当。自分達の置かれた状況が分かってるんでしょうか。

サルタ ……元氣ですね、皆。

エノモト 初めは大変でしたけど。いまは、まだ一ヶ月くらいだから。受け入れてるつもりになつてるんでしょね。

サルタ すごいな。

エノモト ね、もつとパニックになったり、混乱するものかと思えますよね。でもほら、サムカワ先生がしっかりとりしてるから。

サルタ 厳しい人ですからね。

エノモト あ、やっぱり分かります？

サルタ え？

エノモト サムカワ先生、怒ると怖い人なんですよ。

サルタ ああ、…そうなんですネ、やっぱり。

エノモト そうじゃなきゃこんな風にしていられません。

サルタ ですよ。…驚いた。

エノモト どんな風に伝わってるんですか？

サルタ え？

エノモト 私達の事故は。

サルタ え？

エノモト サルタさん、ご存知ですよ。私達が事故にあった時は地球に居た訳だから。

サルタ ああ…。

エノモト 生存者は見つからないんですか？

サルタ …はい。

エノモト 一人も？

サルタ …はい。

エノモト そうですか。ひよつとしたらここにいない三人が助かっているかと思ったんですけどね。ひよつこり地球に流れ着いてるんじゃないかって。

サルタ ……。

エノモト この星にも居ないとすると、まだ、どこかをさまよっているのかもしれないですね。あの辺りを。

サルタ (空を見上げ)。

エノモト 大丈夫かなあ。暗いから、怖いだろうなあ。

サルタ ……。

エノモト まあ、漂流って意味では、私達も同じようなものだけど。

サルタ ……。

エノモト 三人が見つかってないこと、あの子達には伝えないで下さい。聞かれるまでは。

サルタ はい。

エノモト 皆悲しんでました？ 地球に居る人達は。

サルタ そりゃあ、

エノモト ですよ。大惨事ですものね。嫌だな。

サルタ エノモト先生？

エノモト いやだなあ。せめて、伝える手段があると良いんですけどね。元気でやってるよ、って。生きてるよ、って。

サルタ …そうですね。

エノモト 搜索はまだ続けられてるんですか？

サルタ え？

エノモト 正直に言って下さい。

間。

サルタ 続いています。もちろん。詳しくは知りませんが。

写真を撮る音。

そこは20年前の記者会見場となる。

オクヤマが入ってくる。

オクヤマ ほら、始まるよ。

サルタ なにが？

オクヤマ 事故の調査結果だって。早過ぎじゃない？ まだ一ヶ月しかたつてないのに。

男2、現れる。

男2 えー、一ヶ月程前に発生したロケットの爆発事故ですが、政府はこれまで生存者

の捜索、事故原因の調査を行って参りました。その結果であります。懸念な捜索活動を続けましたが、現在我々の持つ宇宙技術で捜索可能な範囲に残念ながら生存者の消息はなく、政府としては、今回の事故の生存者は、事故直後、地球の周回軌道状で救出された春日中学校の生徒三名のみ、と結論いたします。これをもって、「アルシャイン号」事件の調査は終了といたします。

オクヤマ !

サルタ ∴。

女3 事故の原因は判明しましたか？

男2 観測を続けましたが、他の宇宙船が近づいた形跡も、漂流物の飛来も確認できませんでした。

女4 人為的な事故であると？

男2 断定は出来ませんが、そう考えております。

男4 宇宙開発を急ぐあまり、政府の安全対策の基準が緩くなっていたんじゃないですか？

男2 事故が起きたことは非常に遺憾に思います。しかし、政府の基準は妥当であると思います。

男4 多数の被害者が出ていますが、それでも政府に責任は無いと。宇宙の危険性について国民や企業への周知は充分であるということですか。

男2 問題ないと思ってます。

男4 (記者陣に耳打ち) 自信家だね。

オクヤマ どういうこと? もう探さないって、どうして!!

サルタ オクヤマ。

オクヤマ だって、死んだかどうかなんて誰にも分からないのに!

女4 生存者の名前は発表されませんか?

男2 中学生と言う年齢を考慮して、控えさせていたどころです。…が、今回、当人の強い希望もあって、この記者会見に同席して頂きました。本人の口で、皆さんに伝えたい事があるという事です。

記者団 オオ。

サルタ まさか…。

男2 ご紹介します。今回救出された春日中学三年五組、ミシマ君です。

ミシマ、現れる。

ミシマ

ミシマと言います。みなさんに、あの日、本当にあった事を知って頂きたくて、今僕はここに居ます。随分悩みました。でも、自分にはやるべき事があると思うんです。彼らの死を、無駄にしない為に。みなさん、(涙を流す間)ここに帰って来れなかったクラスメートのことを、いつまでも忘れないで下さい。

三人に光が交錯し、消える。

●シーン7

サムカワがいる。ムトウが現れる。

ムトウ サムカワ先生。

サムカワ はい。

ムトウ どうしたんですか？ 何度か声をかけたんですが。

サムカワ ああ、すみません考え事を。

ムトウ たまには休んだらどうですか。

サムカワ ムトウさんこそ。

ムトウ 私には責任があるので。

サムカワ もう良いじゃないですか、それは。

ムトウ 操縦していたのは私です。

サムカワ 仕方ありません。宇宙にはまだまだ分からない事があるんですから。

ムトウ ここに連れて来てしまったのは私です。だから、私には彼らを無事に返す責任がある。

サムカワ そのうち、地球からの助けが来ますよ。彼らの親や保護者が絶対に見つけてくれる筈です。

ムトウ だと良いんですが。

サムカワ ムトウさんのご家族だって心配してるでしょう？

ムトウ サムカワさんだって。

サムカワ いいえ。

ムトウ え？

サムカワ 心配はされてません。

ムトウ え？ でも、旦那さんが。

サムカワ もう亡くなってます。

ムトウ え？

サムカワ なんだか話しそびれてしまっただけ。

ムトウ すみません…。

サムカワ 良いんです。だからねえ、なんだか不思議な気持ちで。

ムトウ 不思議な気持ち？

サムカワ …ええ、まあ。

ムトウ もし良かったら、話してくれませんか。

サムカワ 言いません。

ムトウ 先生、少しは話した方が。いつも何か我慢していらっしやる。

サムカワ そんなことは、

ムトウ 自分で良ければ。

サムカワ あら？

その二人のやり取りを見ているハチマンとイスルギ。

サムカワ 何をしてるの二人とも。

イスルギ へへ。

ハチマン ここに来たら面白いものが見れるって聞いたので。

サムカワ こら、二人とも悪趣味な真似しないの！誰！そんなこと言ったのは！

ハチマン ホラやっぱり怒った！

イスルギ 逃げる！

二人、駆け去る。

サムカワ すみません。待ちなさい！二人とも！（去る）

ムトウ あ、サムカワ先生！

カモワケ （現れ）そうだ！駄目だぞ盗み聞きは！

ムトウ お前か。

カモワケ 残念だったねムトウさん。

ムトウ 子供達まで焚き付けるなよ！

カモワケ 娯楽が乏しいからね。

ムトウ ふざけた真似を。

カモワケ 違うよ。盗み聞きしたかったんじゃないよ。たまたま用があつて来たらムトウさんの告白シーンが。

ムトウ 告白なんかしてない。

カモワケ したでしょ、あと三分くらいで。

ムトウ しない。…聞いたろ。大体、サムカワ先生には旦那さんが、

カモワケ もう亡くなってるんでしょ？

ムトウ だからだ。

カモワケ なんで？ 分からないなあ。

ムトウ …… 思い出つてのは、場合によっては生きてる人よりずっと重いんだ。

カモワケ そうなの？

ムトウ そう。

カモワケ 理解できないなあ。

ムトウ そうなのか、

カモワケ だって、思い出なんていくらでも手に入るのに。

ムトウ …… その通りだけど。

カモワケ あ、思い出した。そうそう、これ、調べてみたよ。あのとぎ拾った破片。

ムトウ どうだった？

カモワケ 俺達じゃなくて、あのサルタつて変態のロケットのものだった。やっぱりメモリー
だったよ。飛行記録かな。

ムトウ なんか読み取れたのか。

カモワケ うん。ロケットの名前は「ガクルクス号」。天王星を目指して飛行してたらしい。
日本の奥尻島から発射されてる。発射時間は2242年5月6日。

ムトウ は？

カモワケ は？

ムトウ いったって？

カモワケ 2242年5月6日、天王星を目指して日本の奥尻島より発射。

ムトウ は？

カモワケ 何？

ムトウ 2242年？

カモワケ 2242年……壊れてんのかな、やっぱり。

ムトウ お前が？

カモワケ 失礼な事言うなよ。って、え？ 俺？

二人、去る。

●シーン8

タケミナ、ククリ、アスハがいる。
イスルギとハチマンがやってくる。

ククリ 遅いよ。

イスルギ ごめんごめん！面白いものが見れてさ。

タケミナ 面白いもの？

イスルギ 最高だったよな？

ハチマン 傑作だね。

アスハ なになに？

ククリ ほら、そんな事より練習。

タケミナ そうだよ、練習しよう。

アスハ もうさ、よくない？

タケミナ え？

ククリ アスハ。

アスハ だってさ、こんな上演できるか分からないもの。

タケミナ アスハ。それは、言わない約束だろ。

アスハ でも、

ククリ 決めたじゃない皆で。サムカワ先生とも。

アスハ …。

タケミナ さ、始めよう。じゃあ今日は最後の場面。

イスルギ よし！ じゃあ王さまの台詞からだな。

ハチマン いつでもいいよ。

ククリ うん、ほらアスハも。メロスの台詞、お願いね。じゃあ良い？ よーい、はい。

ハチマン (王様役) はーはっはっは！ 馬鹿なヤツだ！ 友達なんぞを信用するから、こうして殺される羽目になるのだ。馬鹿な男よのう。人間なんてものを、友情なんてものを当てにするから。はーはっはっはっは。

イスルギ ハチマン、相変わらず乗ってるなあ。

タケミナ (セリヌンティウス) 王よ、まだ日は落ちてない。期限までは時間がある。

ハチマン それもあとわずか。もう貴様の命は風前の灯。ふふふ憎かろう。恨めしかろう、あのメロスとやらのことが。実際、貴様も心の底では後悔しておるのであろう？

タケミナ そんなことは無い。私はメロス信じている。

ハチマン ええい、強がりなヤツめ！

イスルギ おお！ あそこを見ろ！ 誰だアレは？ なんて汚い格好をしているんだ。

アスハ 待て！ その人を殺してはならぬ！

エノモトとサルタが入ってくる。

エノモト またやつてる。本当だったら、私達、もう少しで文化祭だったんです。

サルタ だから、皆『走れメロス』を持っていったんですね。

エノモト そう。文化祭で上演する用に、ククリが脚本にしました。あの子、作家になるのが夢なんです。

サルタ へえ。

エノモト イスルギはロケットが好きで、今回の研修旅行を何より楽しみにしていました。将来はロケットを作る人になりたいって。

サルタ 火星の、ロケット博物館に行く途中だったんですよ。

エノモト そうです。タケミナは同じロケットでも操縦する方、パイロットになりたいって。アスハは看護師。ハチマンは…「幸せなお嫁さん」。

サルタ へえ！

エノモト 驚きますか？

サルタ なんていうか…よく知らないんですけど、意外ですね。

アスハ セリヌンティウス。私を殴れ。ちから一ぱいに頬を殴れ。私は、途中で一度、君を見捨てる悪い夢を見た。君が若し私を殴ってくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえ無いのだ。

タケミナ、アスハを殴るフリ。

タケミナ メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生れて、はじめて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君と抱擁できない。

アスハ、タケミナをひっぱたく。

タケミナ 痛い！

ククリ 続けて！

タケミナ え!!

ククリ 稽古なんだから。途中でやめないで!

タケミナ・アスハ ありがとう、友よ。

二人、手を取り合う。
サムカワもやってくる。

ククリ メロスとセリヌンティウス、おいおいと泣く。

タケミナ・アスハ おいおいおい。

ハチマン (唐突に猛烈に号泣) うおおおお。おめでとう…! おまえらの望みは叶ったぞ。おまえらは、わしの心に勝ったのだ。友情は、空虚な妄想などではなかった。人を信じるという事は、こんなにも美しいものだったのか…!! どうか…:わしも仲間に入れてくれまいか。

タケミナ・アスハ あ、ああ…どうぞ、

ククリ はいはい! オツケー。じゃあ、もう一回途中からやろうか、

ハチマン (深刻に) 監督、今の場面なんすけど、あんな感じで大丈夫ですか?

ククリ え? 何も問題ないと思うけど。

ハチマン うーん、なんていうんでしょう、もっとしっくりくる形があると思うんですよ。王さまの心の何かが、ある意味壊れる瞬間な訳じゃないですか? 彼が積み上げてきたものが崩される訳ですよ?

ククリ ハチマンどうしてこういう時敬語になるの?

アスハ、台本を捨てて出ていく。

イスルギ アスハ、

タケミナ アスハ、

エノモト すみません。皆、大丈夫だから。先生に任せて。

エノモト、追って出ていく。

イスルギ ……どうする?

ハチマン もう少しやろうよ。

タケミナ でも、メロス役がないしな。

ククリ 私、やろうか？

ハチマン 駄目です。監督はちゃんと客席側で見えてくれないと、我々が不安です。
ククリ だからなんで敬語なの？

サムカワ (台本を拾い) サルタさんにやってももらったらどうかしら？

イスルギ あ、良いですね！

ハチマン お願いします！

サルタ いや、サムカワ先生、そんな、

サムカワ せっかくだから。

サルタ せっかくなって、

ククリ やってもらえたら、すごく助かります。大丈夫です、もともとアスハも代役だったので。

タケミナ 読むだけでも良いので、お願いします。

四人 お願いします!!

サルタ ……じゃあ、少しだけ。

ククリ ここからです。

サルタ あ、はい。

イスルギ おお！ あそこを見ろ！ 誰だアレは？ なんて汚い格好をしているんだ。

サルタ 待て、その人を殺してはならぬ、メロスが帰って来た。約束のとおり、いま、帰って来た。

イスルギ 王さま！ ご覧下さい！ メロスです！ メロスが帰って参りました。

ハチマン なにいいいい!! そそそ、そんな馬鹿なあああ!!

タケミナ おお！ メロス！ 我が友！

サルタ 私だ、兵士よ、殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいます。彼と約束をした私は、ここにいます。

ハチマン 監督。

ククリ なあにハチマン。

ハチマン すみません、もうちょっと集中する時間やっぱ下さい。

ククリ またあ？

イスルギ ハチマン、こだわりすぎなんだよ。

サルタ ごめん、なにか、まずかったかな。僕だとやっぱり相手役にならないだろ？

タケミナ サルタさん、そんな事ないですよ！

サルタ いやいや、本当にそうだから。よく言われたんだ、君達くらいの時に。
ククリ え？

サルタ こうやって、おじさんも文化祭でお芝居やった時にね。へたくそで、相手役に
ならないって。

ハチマン そんなことねえっすよ。

サルタ え？

ハチマン むしろ、なんか負けたってどうか。

ククリ 負けた？

ハチマン 読んでるだけなのに、すごい気持ちが伝わるってどうか。「殺されるのは私だ」っ
て台詞が、すごいモノになってるってどうか。心から出てるってどうか。

サルタ ……。

イスルギ そ、そうだった？

ハチマン 出直してきます。(去る)

ククリ ちょっと、ハチマン！(追う)

タケミナ すみません！ 気難しい奴で！(追う)

イスルギ お、おい、皆！(追う)

サルタ ……。

サムカワ ……演技、上手でしたよ。

サルタ 読んでただけですよ。

サムカワ 上手になった。

サルタ なってません。

間。

サルタ ……。

サムカワ 上手になって。

サルタ 先生……。

サムカワ 嘘についてはいけないって教えた筈ですよ、スミヨシ。

間。

サルタ すいません。

サムカワ 立派になって。

サルタ 立派なんかじゃ。

サムカワ ひよっとして、オクヤマとミシマも？

サルタ 生きてます。助かったんです。

サムカワ 良かったあ。

サルタ ……どうして分かったんですか？

サムカワ すぐに分かった。だから、おかしくってねえ。

サルタ 恥ずかしいですね。

サムカワ たったひと月見ない間に、随分成長して現れたから、びっくりした。

サルタ そうか。そうですね。

サムカワ 今いくつ？

サルタ 35です。

サムカワ 嘘みたい。

サルタ はは。

サムカワ サラリーマンは本当？

サルタ はい。それは。

サムカワ ……良かったら話してくれる？ オクヤマとミシマは今何をしてるの？ あなた達は、35歳の今でも仲良くしてる？

男2とミシマ、現れる。二人は別の時間にいる。

サルタ ミシマは……政治家になりました。

サムカワ 嘘！

サルタ 本当です。

サムカワ どうして!!

サルタ 事故の後、本を出したんです。

男2 (インタビューしてる) えー、今回、「アルシャイン号」事件の一部始終を手記として出版される事になった訳ですが、ミシマさん、正直、辛いお仕事だったんではないですか？

ミシマ (はあ…) 確かに、優しい作業ではありませんでした。事故から二年経つてるとは言え、あの時の事を思い出すと、今でも震えが止まりませんし。

男2 なるほど。それでも、出版しようと思った、その思いの源泉となっているのは、一体なんなのでしょうか？

ミシマ …有り体に言えば、友情、なんでしようね。書いてても、書きたくて書いてるといふより、書かされてる、そう感じる瞬間が何度もありました。

男2 今回の本、行方不明となった五人の級友達に捧げられていますね。

ミシマ 当然です。

男2 もし、彼らに何か伝えられるとするなら、なんと伝えたいですか？

ミシマ そうですね……（涙ぐみ）はやく、戻って来いよ。いつまで宇宙を泳いでるんだよ、そう伝えたいですね。

男2 ありがとうございます。

ミシマ すみません。（嗚咽をこらえる仕草）

男2 それとミシマさん、このたび、ミシマさんが事故の時持参していたハンカチが商品として販売されると聞いたんですが。

ミシマ （ケロ）ああ、はい、これなんですけどね。縁起がいいとかで、宇宙守りとして発売する事になりました。

男2 ほほう、それはきつと欲しい方たくさんいらっしゃるでしょう。で、お値段は？

ミシマ 僕はそう言ったものなので、あまり高価にはしたくなかったんですが、作って下さる方の事もあるので、50万円です。

男2 ほほ。でも宇宙の安全を買うと思えば安いものですね！

サルタ それで、人気が出て、文化人としてあちこちの番組に出演するようになって、

サムカワ 信じられない。

男2、去る。

サルタ 24の時に政治家になりました。若くてクリーンなイメージで売っています。

ミシマ （ポスターのような政治家らしいポーズ）

サムカワ 想像がつかない。教室に入るのもやっとの事だったミシマ君が。オクヤマさんは？ 新聞記者になった？

オクヤマ、現れる。

サルタ オクヤマは…科学者になりました。

サムカワ （肯定的に）へえ。

サルタ 二度と、「アルシャイン号」の様な事故が起きないように、新しいエネルギーを見つけるんだ、って言っていました。子供のときですが。

サムカワ あんなに取材するの好きだったのに。何かあると強引に取材取材って押し掛けて。手を焼いた。

サルタ それは…あんまり変わってないかな。

サムカワ え？

男2、現れる。

男2 どうしてウチの会社が分かったんだ？

オクヤマ 手帳を見せてもらったの。

男2 いつのまに…！ 困るよ。会社にまで。

オクヤマ 自宅の方が良かった？ 可愛いお嬢さんね。幼稚園？

男2 あんた…！

オクヤマ 教えて。

男2 なんだよ。

オクヤマ アルシャイン号に使われていたセキュリティは、正常に作動していたの？

男2 あんた…。

オクヤマ 七年前、担当だったでしょう？

男2 それが目的で…。

サルタ 相変わらず、自分が信じた道はけして譲らない感じですよ。

サムカワ 目に浮かぶ。

サルタ あまり浮かべない方が…。

サムカワ ？

男2、去る。と見せかけて別人となって出てくる。

男2 困るよ。事務所に来てちや駄目だって！ 女房も来るかもしれないんだから。

オクヤマ ごめんなさい。

男2 どうしたの？ 週末まで待てなくなった？

オクヤマ あのね。

男2 なになに？

オクヤマ アルシャイン号事件の捜索記録が見たいの。

男2 アルシャイン号？ ああ、あのロケットが爆発したやつ。随分懐かしいものに興味があるんだな。

オクヤマ 調べたいのに、宇宙管理局が教えてくれないの。

男2 そう言えばウチの政党の新人も、そのロケットの事で何か提案してたな。来年でちょうど10年とかなんだろ？ 追悼記念式典だかんだか。あれ？ あれってちゃんと被害者って見つかったっけ？

ミシマ 来年、やりましょう。必ず感動的になりますよ。

オクヤマ その辺が知りたいの。ちゃんと捜索はされたのかどうか。爆発原因もわからない。被害者も回収できてないなんて、謎が多過ぎるでしょ。

男2 またこづかいかせぎか。

オクヤマ お願い。

男2 でも、俺だって宇宙管理局の人間みたいなものだから、

オクヤマ ねえ、お願い。

男2 ま、いいか。仕方ないなあ。誰、担当した奴。

オクヤマ スギハラ、って意地悪なおじさん。

男2 分かった。(電話をかける。旧型のガラケー) いいだろ、レトロで。

オクヤマ わあ！ キッチュ！

男2 もしもし？ ああ、私だ。あのさ、スギハラって奴いるだろ。うんそうそう、その担当の。そいつ、やめさせて。はい。はい。(切る) もうオツケーだよ。

オクヤマ ありがとう！

男2 新しく俺の息がかかった奴担当にしておくから。どんどん取材して。じゃあ、週末に。

男2、去る。

サムカワ …皆、元気にしてるって事ね。

サルタ はい。一応。

サムカワ 良かった。本当に。そうかあ、助かったのね、あなた達は。三人とも立派な大人になれた訳だ。

サルタ まあ、立派とは言いがたいですけどね。

サムカワ ……自分の夢、覚えている？

サルタ ……はい。……宇宙の果てを目指す、冒険家です。

サムカワ 正解。

サルタ でも、結局ただの旅行会社の添乗員です。

サムカワ ただの、なんかじゃないわ。

サルタ 立派なんかじゃありません。地球専門ですし。

サムカワ 地球専門？

サルタ 宇宙には出ないんです。地球のツアー専門です。嫌だったんです。宇宙に出るのは。もう、二度と。

サムカワ …。

サルタ そのつもりでした。なのに、上司の都合で、それも不倫旅行の埋め合わせに使われて、こんなところに来てしまいました。情けないサラリーマンです。

サムカワ スミヨシ、

サルタ どうしようもありません。

エノモト、戻ってくる。

エノモト 先生、良いですか？ ハチマンが「王様の心の闇を理解したい」って、一人で外に行こうとしてて。

サムカワ あら。もう出ちゃった?!

エノモト ククリが必死に止めています。先生からも言っちゃって下さい。

サムカワ 行ってくるわね。

エノモト、サムカワ、出ていく。

●シーン9

サルタ ……(無線を)もしもし。

オクヤマ 良くは分からないけれど、その星の周りは、あるいは、その星は空間だけじゃなく「時間」も好きに行き来できる、ってことみたい。

ミシマ まあ、そう納得するしかないよな。

サルタ つまり、宇宙のあちこちにワープして現れるだけじゃなく、

オクヤマ 時間も飛び越えてワープしてる。未来だけじゃなく、おそらく過去にも。ただ、その星の上では時間は正常に流れてる。

ミシマ タイムマシンは好きな時代に行けるけれど、タイムマシンの中の時間は巻き戻らない。

オクヤマ そういうこと。

ミシマ どうだ、仲良くやってんのか？

サルタ まあ。

ミシマ サルタさんが誰か、あいつらは気づいたのか。

サルタ いや。気づいてない。

ミシマ そりゃそうだ。いつなんだっけ？あいつらの時間は。

サルタ 今日はまだ9月5日だ。2222年の。

オクヤマ 待っててね、そっちに向かうから。

サルタ え？

オクヤマ 助けに行く。二日かかるけれど、待ってて。皆を連れて帰る。

ミシマ 現代の浦島太郎だ。宇宙の神秘に引き裂かれた悲劇！

サルタ 地球に連れていくのか？

ミシマ もちろん。皆だつて帰りたいがつてるだろう。

サルタ でも、

オクヤマ 時間がないの。またその星がいつどこにワープしてしまうのか全然分からないし。

サルタ そうだけど、

ミシマ 里心がついたか？

サルタ そうじゃない。

オクヤマ もう一つ、急ぐ理由があるの。

サルタ なんだ？

オクヤマ ……。10年前、私達確認したよね、皆の遺体を。

サルタ したよ…。あれ？でも、いる。

オクヤマ そう。スミヨシが今一緒にいる皆は、私達が見た「遺体」になる前の皆なの。

サルタ そんなことって。

ミシマ その星のいたずらのせいで、同じ人間が二人存在する事になってるんだ。この宇宙に同時に。まあ、一つはお墓の中だけだな。

サルタ え？え？え？

オクヤマ 聞いて。あの時の遺品の中に、ムトウと言う人物が身に付けていた手帳があった。その手帳の最後の日付が2222年9月15日。

サルタ 15日…。

オクヤマ おそらく、それが皆の死亡日時。皆は9月15日に死んでしまった。9月15日に、皆は死んでしまう。

サルタ 10日後、ここにいる皆が死ぬ…？どうして？

オクヤマ 理由は分からないけれど。歴史上はそうなっている、って事。

ミシマ そして、10年後、2232年に金星の軌道上で発見される。

オクヤマ 分かった？だから急いでるの。

サルタ よく分からないけど、つまり、

オクヤマ 皆を地球に連れて帰る。9月15日以降も生き続けさせる為に。その星の時間から、2242年のこちら側に引っ張り出す。

ミシマ スミヨシ、歴史を変えるぞ。ワクワクするだろ？

全員、消える。

●シーン10

ムトウ、現れる。追ってカモワケ。
二人は外から戻ってきたところ。

カモワケ 焦った。なんだよ、突然外に出てくって。死にたい訳？

ムトウ なんだろ？

カモワケ 学芸会の練習してて、落ち込んで吹雪の中飛び出してくって、どれだけ懸けてる訳!! 女優魂ありすぎじゃない!!

ムトウ まあ良いじゃないか。それだけ本気ってことなんだから。

カモワケ こっちは死ぬ思いだよ。見つかって良かった。

ムトウ お前もそんな気分になる事あるんだ？

カモワケ あるよ、もちろん。高性能だからね！

ムトウ 自慢するな。

カモワケ なんなの？あのサルタって奴が引き金なんですよ。なにしたの？

ムトウ 真に迫った演技だったらしい。

カモワケ 大人だもん、当然でしょ。未来人なんだから当然でしょ！

ムトウ それは関係ないだろ。

カモワケ どうすんの。

ムトウ なんだよ。

カモワケ 未来人だって、皆に報告するの？

ムトウ …。

カモワケ なんかあるね。

ムトウ なんか？

カモワケ 20年後から来たって事は、俺達の事故も知ってるってことでしょ？ 多分。

ムトウ 多分な。

カモワケ でも自分の素性を明かさなかったって事は、何かあるんだよ。何か知ってるんじゃない？

ムトウ ……。

カモワケ 何を秘密にしてるかは知らないけれど、秘密にするだけの理由があるんだよ。秘密にしなきゃならない理由が。てことはさ、

サムカワ、現れる。

サムカワ ムトウさん、どうもすみません。

ムトウ あ、いえいえ。

サムカワ ありがとうございます。ハチマンもだいぶ落ち着いたみたいです。

ムトウ 良かった。

カモワケ 先生にも言わないと。

サムカワ え？

ムトウ おい、

カモワケ 共有しといた方が良いつて。大事だつて言つてたろ、こん・ぺい・とう、

ムトウ ほう・れん・そうだ。

サムカワ 何の事です。

カモワケ 仕事をチームでこなす時の秘訣です。根性、平常心、闘志。

サムカワ 暑苦しいのね。

ムトウ 実は…サルタさんの事ですが、

サムカワ はい。

ムトウ 彼の乗つてたロケットは、2242年から来てたんです。

サムカワ え？

カモワケ 時の旅人だったんです。20年も未来から来た。

サムカワ …。

ムトウ 先生？

サルタ、入ってくる。

サルタ 先生、

カモワケ 良いところに来た。

サルタ え？

カモワケ 話してもらおうか。

サルタ なんですか。

ムトウ 君のロケットのレコーダーを回収してね。発射日時を確認させてもらった。2242年、5月6日。

サルタ …。
カモワケ どういうことだ。話してもらおう。
サムカワ ロケットの間違いじゃないかしら。
カモワケ 先生、機械は間違えません。
サムカワ そんなことないわよ、
カモワケ 機械は間違えないんだ！
ムトウ 話してくれませんか？
サルタ …地球から救援が来ます。

間。

サルタ 連絡が取れました。順調に行けば、二日後、この星に到着します。皆さんを乗せて帰れるだけのロケットです。

カモワケ マジで!!

サルタ はい。

カモワケ やったあ！

ムトウ …それは、2242年からくるんだね？

サルタ …はい。

カモワケ いったって良いじゃん、助かるんなら！

サムカワ でも、

サルタ もちろん、ちゃんと伝えました。こっちの人間には、特に中学生には、今がいつなのか、まだ説明はしないでくれと。

サムカワ そう。

サルタ 地球で、ちゃんと順を追って、説明してもらおう予定です。

サムカワ 私達も、この事は内密に。

カモワケ なんて？

ムトウ カモワケ、

カモワケ 分かんないなあ。

ムトウ 分からなくて良い。そうしてくれ。

サムカワ じゃあ、皆に伝えて来る。どうもありがとう。(去る)

カモワケ …サムカワ先生、あんまり嬉しそうじゃなかったね。

ムトウ そうだな。

カモワケ 理解できないなあ。あ、帰る準備しなきゃ！（出てく）

サルタ …じゃあ、

ムトウ サルタさん。

サルタ はい。

ムトウ 何が私達を待っているんだね？

間。

サルタ 未来です。

ムトウ 未来は、あるんだね。

サルタ …はい。今度こそ、ちゃんと助けます。

アスハ、現れる。（サルタのイメージとして）

アスハ 「ばかな。」と暴君は、嘎れた声で低く笑った。「とんでもない嘘を言うわい。逃がした小鳥が帰って来るといのか。」

サルタ 「そうです。帰って来るのです。」メロスは必死で言い張った。

ムトウ ……信じるよ。

ムトウ、去る。

サルタ 「私は約束を守ります。」

ロケットの発射される音が響く。

● シーン 11

オクヤマ、現れる。後ろにヤマヒコが控える。
ミシマ、現れる。
サルタとは別の空間として。

ミシマ 寝てないのか？あと六時間くらいで到着するぞ。

オクヤマ …。

ミシマ ここはいい。

ヤマヒコ しかし、

ミシマ 大丈夫だから。ヤマヒコも休んでて。

ヤマヒコ しかし、

ミシマ いいから。

ヤマヒコ、しびしび去る。

ミシマ 上層部に充てがわれたありがたい秘書兼ボディガード。実際は何をするか分からないヤンチャな若手議員を監視するお目付役。ここまでついてくるとは思わなかったなあ。

オクヤマ 大変ね。

ミシマ 組織の中で力を付けるにはね、必要な妥協。

オクヤマ 皆に会って、なんて声を掛けるつもり？

ミシマ 決まってるだろ。「助けに来ました。」

オクヤマ それだけ？

ミシマ スミヨシと約束させられたからな。余計な混乱をさせないように。

オクヤマ じゃあ、いつ伝えるつもり？

ミシマ いっにしようかねえ。俺、嘘つくの苦手なんだよ。オクヤマの口から伝えてくれないか？

オクヤマ どうせ感動的な出迎えの準備もしてるんでしょう？

ミシマ ええ？

オクヤマ ロケットが地球に到着した瞬間、盛大なイベントが。

ミシマ だからこうしてわざわざ出向いてる。10年前の追悼式典の続きだな。完結を迎えた筈の「アルシャイン号」物語に、まさかの続編が誕生！感動の再会のドキュメント！

オクヤマ 本当にどうしようもないわね。

ミシマ どうする？10年前みたいにイベントの妨害でもするか？

オクヤマ ……

ミシマ してもいいんだぞ。

オクヤマ 嫌な奴。そうしたらまた投獄するつもりでしょ？私の事。

ミシマ あれはすまない、って。

オクヤマ 精神鑑定や記憶の洗い出しまでされて、

ミシマ 手え回したんだよ、あれでも。おかげで地球に留まれたろ？

オクヤマ ……

ミシマ 仕方ないだろ、俺の立場じゃさ。お前が可愛い事考えるから。

サルタ、突然割って入る。

サルタとミシマは10年前にいる。

サルタ なんであそこまでする必要がある？

ミシマ 感動の演出だよ。あのくらいしておかないと、大衆はアルシャイン号のこと覚えててくれないだろ？

サルタ イベントのことじゃない。オクヤマのことだ。

ミシマ 俺だって好きであんな扱いをした訳じゃない。

サルタ ミシマ。

ミシマ いきなり登壇して、「事件はまだ終結していない」って騒ぎ出されちゃうとさ。ああするしかないだろ。

サルタ お前、本当に何か隠してるんじゃないのか？

ミシマ ……隠さないよ。あの事件は、どこまでいっても「ただの事故」。それだけなんだよ。スミヨシだって分かっているんだろ。俺達は、たまたま生き残った。オクヤマだって分かっているんだよ本当は。

サルタ ……

ミシマ だったら、それを受け入れて生きてくしかないだろ。

サルタ ……

ミシマ 大人になれなかったあいつらの分、生きてく責任つてのがさ。

サルタ 俺は無理だ。

ミシマ じゃあどうする？

サルタ 約束は果たした。じゃあな。

ミシマ またな。

サルタ …（とは言わず、去る）

ミシマ そうして、あいつはシミヨシを捨てた。あのロケットの生き残りである事を放棄した。弱虫め。

オクヤマ 弱虫？

ミシマ 弱虫だよ。

オクヤマ 自分こそしょっちゅう泣いてるくせに。スイッチでもついてるのその涙？

ミシマ 訓練の賜物。

オクヤマ 10年前、あんなに泣き崩れて悲劇のクラスメートを演じておいて、ばつの悪さは感じないの？

ミシマ 今度は、あれを上回る感激を見せないと。自信がないなあ。

オクヤマ よく言う。

ミシマ ちよっと練習するからつきあつてよ。

オクヤマ 一人でしなさいよ。

ミシマ ちよっとだからさ、つきあえよ。

オクヤマ いやだつて。

ミシマ、泣き崩れる。

オクヤマ ……。

ミシマ (泣いている)

オクヤマ ……。

ミシマ (泣いている)

オクヤマ ミシマ、長い。くどいって。

ミシマ (泣いている)

オクヤマ ……もう充分でしょ、

ミシマ (泣いている)

オクヤマ ……。

ミシマの噺り泣きと嗚咽が小さく響く。

オクヤマ …… (泣けてくる)。

ミシマ (泣き続ける)

オクヤマ なんなのよ…一体…。 (泣く)

二人、小さく泣いたまま。

●シーン12

タケミナ、出てくる。

エノモト、追って出てくる。

エノモト どうしたの？

タケミナ だって、

エノモト 帰れるのよ、地球に。救援のロケットが来るの。私達助かるの。

タケミナ まだ、

エノモト まだ？

タケミナ まだ帰れません。

サルタ、追って出てくる。様子を見る。

エノモト どうして、

タケミナ 全員揃ってません。

エノモト それは…。

タケミナ 僕達がここにいるんです。スミヨシも、オクヤマもミシマもこの星の何処かにいるかもしれないじゃないですか。

エノモト そうだけど、

タケミナ こうしてる今も、ひよつとしたら僕達を捜してるのかもしれない。この宇宙のどこかで、ひとりぼっちで泣いてるのかもしれない。

サルタ ……。

タケミナ 僕達だけ助かるわけには、

サムカワ、カモワケ、生徒達、出てくる。ムトウが最後に。
すれ違うように、オクヤマ、ミシマ、去る。

エノモト だからって、ずっとここにいる訳にはいかないじゃない。三人だって、むしろ、もうどこかで助かってるかもしれないし。

イスルギ そうだよ、タケミナ。

ククリ ここで待っていても、三人が来るとは限らないじゃない。

ハチマン 本番だって近いんだよ。

タケミナ でも、

カモワケ タケミナ君、君の気持ちは分かるよ。そうしたいのはやまやまだよ。でも、まずはここににいる人達だけでも生還しなきゃ。

タケミナ 分かりました…じゃあ、僕だけここに残ります。

カモワケ はあ？

タケミナ 僕、残ります。皆は帰って下さい。

エノモト そんな訳にはいかないでしょ!!

アスハ いい加減わがままやめてよ！ タケミナ！

タケミナ だって俺、副代表だし、

アスハ 関係ない。

タケミナ だって誰かのこつてないと！ちゃんと待っててあげないと！

サルタ ……。

タケミナ あいつらがここに辿り着いたとき、可哀想だ。

間。

ムトウ 分かった。

エノモト ムトウさん…？

ムトウ 確かに君の言う通りだ。しかし、君はまだ15歳だ。例え三人と再会できたとしても、どうする事も出来ない。

タケミナ それは…。

ムトウ 君はまだ子供なんだ。だから、君は地球に戻りなさい。

タケミナ でも！

ムトウ 彼らを待つのは、大人の仕事だ。

タケミナ え？

エノモト ムトウさん！

ムトウ カモワケがここに残る。

全員 (肯定的に) ええ!!

カモワケ なに言ってんだてめえ！

ムトウ 頼んだぞ。

カモワケ 嫌だよ！

ムトウ 子供達の希望だ。

カモワケ お前の希望だろ！

イスルギ そうか。さつき、タケミナの気持ちが変わるって言ってたもんな。

カモワケ 分かんない。全然理解できない。

ハチマン なんて高性能なロボットなんだ。

ククリ そう言う意味だったのね！ありがとう！カモワケさん！あなたの事は忘れません。

カモワケ 忘れていいよ！やだよ！俺は！

タケミナ カモワケさんが、そう言ってくれるなら…。

カモワケ ダメダメ、ちよとタケミナ君！諦めないで！初志貫徹して！

アスハ タケミナ、帰ろう？三人なら大丈夫だよ。案外、あたし達より先に助かってるかもしれないし。

タケミナ だって、

アスハ 何？

タケミナ あいつ、言ったんだ。

アスハ あいつ？

タケミナ ロケットが爆発する寸前、スミヨシが、

サムカワ ……なんて？

タケミナ 必ず助けに来る、て。

アスハ それはさあ、

ハチマン 聞き間違いじゃない？

カモワケ いや、確かに言ってたね。うん、言ってた。

ムトウ 余計な事ばかり覚えて…！

タケミナ だから、待ってないと。

サムカワ だから、ここで待つ？

タケミナ 駄目ですか？

サムカワ なら、

サルタ タケミナ君、

タケミナ ……はい。

サルタ 君のクラスメートは、ちゃんと生きてるよ。

タケミナ え…？

サルタ 思い出したんだ。僕が地球を出発する頃、君達の「アルシャイン号」の事故は連日メディアを騒がせていた。報道もたくさんされてね。僕はあまり、まさかこんなところで一緒になるなんて思わなかったから、気にしてなかったんだけど、確か言ってた筈だよ。中学生三人が地球の近くで救出されたって。

タケミナ え…本当ですか？

サルタ 嘘は言わないよ。こんなことで。

タケミナ 三人とも？

サルタ 多分ね。三人って言ってたから。特に怪我もなく、健康のようだった。

イスルギ オクヤマも無事だったの!!

サルタ ああ。

イスルギ 良かった…!

ククリ すごい！三人とも無事だったんだ！奇跡みたいじゃない!!

アスハ なんか、今まで必死に探してきたのが馬鹿みたい。

サルタ だから、ここで彼らを待つ必要はもう無いよ。きっと、その三人はいまごろ地球で君達の到着を待ってるんじゃないかな。君達が無事に帰ってくるのを。もう一度、一緒の学校生活が送れるのを。『走れメロス』の準備をしながら。

ハチマン わあ、なんかプレッシャーだ。

タケミナ そうか…助かってたのか。

エノモト 良かった、皆無事だったのね!

サムカワ …じゃあ帰ったら、遅れた分勉強も頑張らないとね。

アスハ えー！なにそれ!!

サムカワ 当然です。忘れてるかもしれないけれど、皆中学生なんですから。受験生なんですよあなた達は。

サルタ だから、何も心配しないで、地球に帰れば良い。帰るんだ。タケミナ。

タケミナ 良かった。良かった…!

サルタ 君は、ちゃんと、(言葉を探して)大人にならなきゃ。

タケミナ …はい。

サムカワ …だって。良かったわね、皆。

ムトウ カモワケも命拾いしたな。

カモワケ もともと捨ててないよ。

タケミナ 分かりました。…皆、地球に戻るぞ。

生徒達 おおー!

イスルギ あ！

ククリ どうしたの？

イスルギ ロケットだ！ 僕達を迎えに来たんだ！

イスルギ達中学生、出ていく。
ムトウ、カモワケも続く。

エノモト …ありがとうございます。

エノモト、去る。

サムカワ また嘘。

サルタ すみません。

サムカワ でもありがとうございます。

サルタ 先生に、ちゃんと地球に帰ってもらいたかったんです。

サムカワ …。

サルタ 一緒に帰りましょう、先生。今度こそ。

ロケットが着地する地響き。

オクヤマ、ミシマ、ヤマヒコ、現れる。

●シーン 13

ヤマヒコ 地球から参りました。「アルシャイン号」に乗船し、遭難した方々ですね？

サムカワ そうです。

ミシマ あなたが責任者ですか？

サムカワ はい。サムカワです。教師です。学校の研修旅行で引率し乗船していました。

ミシマ そうですか。助けに来ました。どうぞ、ロケットに乗船して下さい。

エノモト、現れる。

エノモト 全員準備できてます。

オクヤマ では、確認させて頂きます。(名簿を見る)

サムカワ 呼んで。

エノモト 皆、ムトウさん、カモワケも。

全員、現れる。

オクヤマ 名前を呼ばれたら返事をお願いします。まず若い、中学生の皆さんから。…アス
ハさん。

アスハ はい。

オクヤマ イスルギ君。

イスルギ はい。

オクヤマ ククリさん。

ククリ はい。

オクヤマ タケミナ君。

タケミナ はい。

オクヤマ ハチマンさん。

ハチマン はい。

オクヤマ エノモトさん。

エノモト はい。

オクヤマ サムカワさん。

サムカワ はい。

オクヤマ ……カモワケ、さん？

カモワケ はいはいはい！

オクヤマ (おや？ と言う顔)

カモワケ なにか？

オクヤマ ……いいえ。ムトウさん。

ムトウ はい。

オクヤマ 「アルシャイン号」の、操縦士だった方ですね？

ムトウ はい。

オクヤマ よくご無事で。

ムトウ ありがとうございます。

オクヤマ ……「ガクルクス号」に乗船していた、プレアデス観光のサルタさん。

サルタ はい。

オクヤマ 以上、全部で十名ですね。

サムカワ はい。間違いありません。

オクヤマ (改めて見渡し) ……。

エノモト ? どうされました？

オクヤマ いえ、

ミシマ みなさん、よく頑張りましたね。もう大丈夫です。これから地球に向かいます。明後日、9月10日には、地球に到達する予定です。後少しの辛抱です。席に着いて下さい。航行が安定したら、医療チームが皆さんの健康状態をチェックします。

オクヤマ 天候が大人しいうちに出発します。さ、急いで下さい。

全員、席に着くアクション。

ヤマヒコ シートベルトで身体を固定して下さい。それでは、出発します。

ロケットが発射される音。
離陸するロケット。
やがて轟音が消える。

ミシマ 星の重力圏を抜けたようです。もう、ベルトをはずして大丈夫ですよ。

サムカワ ……。

サルタ 二人です。
サムカワ やっぱり。

生徒達、立ち上がり固まって窓に。

ククリ 先生、見て。

エノモト どうしたの？

ククリ あれが、私達がいた星？

エノモト そうね。

アスハ あんな星だったんだ。

ハチマン まっしろ。

イスルギ こんな大きい星だったのか。

タケミナ もう、二度とここには来ないんだな。

全員。言葉もなく見つめている。

ヤマヒコ ラウンジに飲み物や食べ物を用意されてる筈です。食べたい人は、どうぞ。

イスルギ 何があるか見に行こう！

イスルギ、ハチマン、アスハ、ククリ、出ていく。
ムトウとカモワケも。

タケミナ …。

サルタ どうしたの？

タケミナ あそこにいたんだなあ、と思って。

サルタ そうだね。

タケミナ おかげで、僕達は助かった。

サルタ あの星が事故の原因かもしれないよ。

タケミナ 僕達のロケット、事故原因は分かっているんですか？

サルタ …みたいだね。

タケミナ 怖いなあ。宇宙は。

サルタ いやになった？

タケミナ え？

サルタ …聞いたよ。ロケットの操縦士になりたいんだろ？

タケミナ はい。

サルタ 怖くないの？ こんな想いをして。

タケミナ …怖いです。

サルタ じゃあ、諦める？

タケミナ いえ。

サルタ へえ。

タケミナ 夢だから。諦めません。

サルタ そうなんだ。

タケミナ 僕一人じゃないんです。二人の夢だから。

サルタ …。

タケミナ 僕がロケットの操縦士になって、友達はそのロケットに乗って旅する冒険家なんです。二人で、そうなるうって、約束したんです。二人で、宇宙の果てを目指そうって。

サルタ …そうか。

イスルギ、アスハ、戻ってくる。

タケミナ 僕は諦めません。一生懸命勉強します。

サルタ うん、それが良い。

タケミナ サルタさんは、どうして旅行会社に就職したんですか？

サルタ どうしてって…。

タケミナ 夢だったんですか？

イスルギ (窓により身を乗り出そうとしている)

オクヤマ (イスルギに) どうしたんですか？

イスルギ 僕達がいた星が、なんだか二つに増えたように見えて。

オクヤマ え？

イスルギ ほら、二重に見える。

アスハ 本当だ。

オクヤマ (横で) あら、本当だ。近くにあんな星なかった筈だし…。

イスルギ ですよね？ なんて言う現象だろう。

サムカワ どうしたの？

アスハ 星が二つあるように見えて。

オクヤマ ひよっとしたら、二つに増えたんじゃないなくて、動いてるのかも。

イスルギ 星が？

オクヤマ 星が。動いた後も残像がはつきり見えてる可能性がある。

イスルギ そんなことがあるの？！

オクヤマ 常識ですよ、宇宙の世界では。

イスルギ ……。

オクヤマ え？

イスルギ オクヤマ？

間。

オクヤマ ……。

アスハ え？ どうしたの？

イスルギ あんた、オクヤマか？ オクヤマだろ？

タケミナ イスルギ？

イスルギ タケミナ。

アスハ どうしたのあんた？ 早くオクヤマに会いたいからって、おかしくなった？

イスルギ 違う。オクヤマだよ。この人、オクヤマだよ。俺達と同じクラスの。

サムカワ イスルギ、

イスルギ 先生…。え？ なにこれ？ なんでオクヤマが？ なんだよ。なんで大人になってるんだよお前。

オクヤマ 私は、

アスハ そう言えば…。

タケミナ そんな馬鹿な事、

イスルギ お前もよく見てみるよ、ホラ！

オクヤマ 皆、聞いて、

アスハ ミシマ？

間。

ミシマ ……。

ハチマン、ククリ、エノモト、現れる。追ってカモワケ、ムトウ。場の空気を察知する。

イスルギ え…。

アスハ あんた、ミシマでしょ？ そうだ。ミシマだ！ ほら！ タケミナ、皆、よく見て！
ククリ どういうこと？

タケミナ (サルタを見つめ)

イスルギ なんなんだよ。どうしてお前達、大人になってるんだよ。どうしてミシマとオクヤマがここにいるんだよ！

オクヤマ 聞いて、皆、

ハチマン この二人がオクヤマと、ミシマ？

ククリ なんで?! どうしてこんな大人になってるの!!

オクヤマ 違うの！

ミシマ 静かにしろ。

間。

ミシマ 久しぶりに会ったと思ったら、相変わらずぎゃーぎゃーぴーぴー。変わってないな。

ハチマン お前は変わり過ぎだ！

ミシマ ありがとう。ま、変わってないか。一ヶ月しかたってないんだから。あの星の間では。

全員 え？

サムカワ ミシマ君、

ミシマ 浦島太郎だよ。想像つくだろ？

オクヤマ 聞いて、あの星はね、空間だけじゃなく、時間まで飛び越える星なの。

ククリ え？

オクヤマ あの星は私達の事故の後、どこかに消え、そして時間を飛び越えて、大人になった私達の前に再び現れた。

ミシマ 自由自在に現れたり消えたり。おかげで、こうやって巡り会う事が出来たけどな。

オクヤマ 未来だけじゃなく、過去に現れる可能性もゼロじゃない。だから急いで助けに来たの。

タケミナ どのくらいの時間を飛び越えたんですか？ 僕たちを乗せて。

ミシマ ……20年だ。タケミナ。

間。

ミシマ 本当に、迷惑な星だよ。

オクヤマ あの星のせいで、「アルシャイン号」も爆発した可能性がある。

イスルギ ロケットがぶつかって？

オクヤマ そう。

ミシマ 中には、二回もあの星に激突する不運な男もいるけどな。

間。

全員、ゆっくりとサルタを見つめる。

サルタ 皆…。

タケミナ ……スミヨシ。

サルタ ごめん、

タケミナ なんだ…。生きてたんじゃん。

サルタ ごめん、

タケミナ 言えよ。

サルタ うん、

タケミナ やっぱり、

サルタ え？

タケミナ 言ったら、皆？ ほら、…ちゃんと助けに来た。

サルタ ごめん、……ずいぶん遅くなって……。

タケミナ そんなことねえよ。

間。

一瞬の後、轟音。

アスハ

何!!

ムトウ 皆、どこかに掴まるんだ。

イスルギ (外を見る) 星が！

ミシマ どうした？！

オクヤマ あの星がすぐ近くに！

ハチマン どうして？！

エノモト さっきはあんな遠くに見えてたのに！

カモワケ ロケットが軌道を修正したのか？！このままじゃ星に落ちるぞ？！

ムトウ そんな馬鹿な。

オクヤマ 早く離れないと！

ミシマ なにやってるんだ操縦士は。

ヤマヒコ 見てきます！(去る)

アスハ 何なのよ、あの星！私達を追っかけてるみたい。

ククリ 怒ってるんだ。

サルタ え？

ククリ あの星、怒ってるんだ。私達が逃げようとしてるから。

ハチマン カモワケが残ってさえいれば！

カモワケ ひどいぞ！

ヤマヒコ (戻ってきて) 奥に非常用の小型ロケットが！

ミシマ 奥に非常用脱出口ロケットが用意されている。全員移動するんだ。

入り口でオクヤマとミシマが誘導しようとする。

全員移動を始めようとしたその時、再び轟音。

全員 (悲鳴)

地鳴りのような音が響く。

衝撃でロケットが傾いたかのように、オクヤマ、ミシマ以外が片側に寄せられる。
カモワケとサルタが入り口に残る。

サルタ タケミナ！

タケミナ スミヨシ！

カモワケ (サルタを抱え) 危ない！

サルタ 離せ！

カモワケ 駄目です！ 早く避難を！

サルタ 友達が残っているんだ！！

再び引き離されて、対峙。

サルタ タケミナ！ 先生！ 皆！

タケミナ スミヨシ…。

サルタ 今そっちに行く！

カモワケ 無茶だ！

オクヤマ 危ない！

ミシマ スミヨシ！

サルタ なにやっつてんだ皆！ 俺達は助けに来たんだろう！！ あいつらを連れて帰るんだろう！！

轟音。

中学生側の悲鳴。

オクヤマ あの星、本当にこのロケットを飲み込もうとしてる…。

ミシマ なんて星だよ。しつこい女は嫌われるぞ！

ムトウ 皆、かたまるんだ！ バラバラにならないように！

サルタ タケミナ！ ほら、手を伸ばせ！

サルタの伸ばした手をタケミナ、掴もうとする。

轟音とともに船体が大きく傾く。

カモワケ 危ない！

ミシマ スミヨシ！

アスハ タケミナ！

サルタ 皆！

オクヤマ 無茶しないで、皆を巻き込むつもり？！

轟音。

オクヤマが倒れる。

オクヤマ！

ミシマ 大丈夫か!!

カモワケ 大丈夫ですか!

サムカワ ……ミシマ君!

ミシマ はい、

サムカワ 先に行きなさい。オクヤマさんも連れて。ここは危ないわ。

ミシマ ……分かりました。オクヤマ行くぞ!

オクヤマ 先生!

サムカワ 良いから。先に行つて。

ムトウ カモワケ!

カモワケ なんだよ!

ムトウ 三人を頼んだぞ。必ず、地球まで戻るんだ。

カモワケ あんたは!! ムトウさん。

ムトウ こっちは大丈夫だ。コックピットに行つて、このロケットを動かしてみる。お前達を切り離れた後、もう一度あの星に不時着してみる。

カモワケ 出来んのかよそんなこと!!

ムトウ 任せろ。なんせ、一度経験している。

間。

イスルギ オクヤマ!

オクヤマ イスルギ。

イスルギ なんだよ、すっかり大人になって。…俺、大人になるから。大人になって、ロケットを直して、必ず地球に帰るから。

オクヤマ はあ?

イスルギ 待つてろよ!

サルタ 先生…。タケミナ。

サムカワ 行きなさい。

サルタ いやです!

サムカワ 言うことを聞きなさい!

サルタ いやだ！

サムカワ ミシマ君、カモワケさん、聞き分けの無いその子を、ちゃんと連れてってね。無理矢理にでも。

サルタ 先生！

ミシマ 行くぞ！

サルタ 離せ！

タケミナ ……スミヨシ、行け。

サルタ そんなこと言うなよ……！

タケミナ あの星、本当に俺達を掴まえようとしてるのかもしれない。今ならお前達は逃げられる筈だ。

サルタ 俺は行かない！

タケミナ 二回も助かったんだ、今度だつてきつと助かる。

サルタ いやだよ、なんでいつもお前達だけ！

タケミナ (笑つて) なんでだろうな。

サルタ いやだ！ もういやだ！

タケミナ スミヨシ！

サルタ 俺もそつちに行く！

タケミナ スミヨシ！

サルタ せつかく会えたんだ。やつと会えたんだ。20年、ずっと苦しかった。ずっと待ってたんだ！

タケミナ ……。

サルタ 助けられなかった。何も出来なかった。約束も守れなかった。俺は、生き残りたいくなんてなかった……！ 出来るなら、皆と一緒に死にたかった!! 20年、ずっとその場所を探してたんだ!! 置いてかないでくれ。俺だけこつちに置いてかないでくれ……!!

タケミナ ……駄目だ。こつちに來たら、俺はお前を許さない。

サルタ タケミナ、

サムカワ スミヨシ、そつちで、あなたはあなたのやるべきことをちゃんと果たしなさい。

サルタ 先生。

サムカワ 私達は大丈夫。一度会えたんだもの、また会えるかもしれない。

タケミナ そうだよ。

サルタ タケミナ、

タケミナ 大丈夫、俺達、死ぬわけじゃないから。あの星に乗って、きつとまたどこかを旅してただけだから。ひよつとしたら、また1年後再会できるかもしれない。20年後かもしれない。ひよつとしたら、明日かもしれない。

サムカワ 私より、おじいちゃんになってるかもしれないのね。

タケミナ そう。もしかしたら、まだほんの赤ん坊のシミヨシに会うかもしれない。もつと立派になった、奥さんも子供もいるお前と会うかもしれない。教室で初めて言葉を交わした、あの時のお前に会うかもしれない。

サルタ いやだ、タケミナ。

タケミナ 待ってるからな、お前のこれからの人生のあちこちで。その時、もう一度一緒に学校へ行こう。一緒に、『走れメロス』の練習をしよう。何度でもやり直そう。

ククリ そうだ。待ってるから。頼んだよ、メロス。

ハチマン 台詞入れておいてよね、あたしはバッチリなんだから。

サルタ 皆、

タケミナ スミヨシ、…またな！

轟音が包む。

全員、散る。散り散りの全員が消えていく。

●シーン 14

サルタがいる。側にオクヤマ、ミシマ、カモワケ。
サルタ以外は窓の外を見ている。

サルタ そうして、非常用ロケットは切り離され、タケミナ達を乗せた本体は、あの星へ
降下していった。

オクヤマ 帰っていく…。

ミシマ 星が、呑み込んでくみたいだな。

カモワケ あ、

オクヤマ 消える。

間。

ミシマ ……なんて星だ。

カモワケ 消えちゃった。

オクヤマ 皆ごと。

ミシマ ……無駄足だったな。

カモワケ そんな事ないよ、俺がいるもの。

ミシマ そうだった。

オクヤマ あなた、アンドロイドでしょう？

カモワケ もちろん。

ミシマ ええ？ まじで!!

カモワケ なに？

ミシマ 命をかけて助けに行つて、救出できたのがアンドロイドだけつて、なんだよこ
りゃ。

カモワケ なんだよその言い草。人を外れくじみたいに。

ミシマ 人じゃないだろう？

カモワケ 人じゃないけど。

オクヤマ スミヨシ。

サルタ (脱力して座りこんでいる)

オクヤマ ……仕方ないわ。

サルタ　また助けられなかった。

オクヤマ　そんなことない。

サルタ　そうだろう、

オクヤマ　スミヨシ、

サルタ　だって、歴史は変わらないだろ？ 五日後、あいつらは

オクヤマ　まだ分からない。

サルタ　え？

オクヤマ　皆が言ってた通り、あの星が時間を行き来してるなら、私達はまだ何回でもあの星と遭遇する可能性がある。

サルタ　……。

オクヤマ　だから、きっとまたチャンスはある。

ミシマ　今のところ、10年周期だしな。

オクヤマ　そう。10年後、また現れる可能性はある。

サルタ　10年後。

ミシマ　でも、ひよっとしたら来週かもしれない。

カモワケ　でも、もう二度と現れないかもしれない。

オクヤマ　それは、…わからない。

間。

ミシマ　コックピットに行ってくる。(ヤマヒコに) 何残念そうな顔してるんだよ。

ヤマヒコ　え？

ミシマ　まあいいよ。他に怪我人や犠牲者がいないか確かめないと。行ってくれ。

ヤマヒコ　分かりました。

ミシマ　オクヤマも、

オクヤマ　え？

ミシマ　頭打ってたろ。一応検査した方が良い。

ミシマ、オクヤマ、ヤマヒコ、去る。

サルタ　……。

カモワケ　ああ、やっと帰れる。

サルタ あんた、

カモワケ うん？

サルタ 20年前も、俺のこと止めたよな。さつきみたいに。

カモワケ そうだっけ？

サルタ そうだよ。思い出した。「アルシャイン号」の客室乗務員だったんだ。

カモワケ ああ、思い出した思い出した。あの時の中学生か。

サルタ いつもいつも余計な事して。

カモワケ あの時も止めたな。確かに。おかげで俺は遭難するはめになったけど。

サルタ …。

カモワケ すっかりおっさんになってるから、一瞬繋がらなかったよ。一ヶ月前の事なのに。

サルタ そうか。

カモワケ うん？

サルタ 一ヶ月前なんだよな、

カモワケ そうだよ。

サルタ あの時の事、覚えてるか？

カモワケ まあな。高性能だから。

サルタ (聞こえないくらい小さな声で呟く)

カモワケ おい、失礼だぞ、アンドロイド差別だ。

サルタ 聞こえるんだ。

カモワケ 当たり前だ。

サルタ あの時さ…、

カモワケ あの時？

サルタ 20年前、アルシャイン号が爆発する直前、俺、あんたに押さえつけられてた。

カモワケ うんうん。

サルタ あの時、タケミナがなんて言ったか覚えてるか？

カモワケ え？

サルタ 俺があんたに助けられる直前、ロケットの向こう側で、タケミナ、何か言ったんだ。俺に。あれ、なんて言ったか聞こえてなかったか？俺は、なんて言ったのか聞き取れなかったんだ。

カモワケ うるさかったからな。衝撃でロケットもガタガタしてたし。

サルタ 覚えてないか？

カモワケ 覚えてるよ、もちろん。

サルタ なんて言ったんだ？ あいつ。

カモワケ 「必ず助けに行く。」

サルタ …。

サルタ、膝をつき声を上げずに泣く。
音楽。

サルタ そうして、時は流れる。俺は生き続けている。相変わらず、死ねなかったまま。

男2 あのさ、明日からの調査なんだけど、ルートを変更しても構わないかな？

サルタ え？ どうしてですか？

男2 秋山の奴が風邪引いたって。

サルタ え？ てことは、

男2 そう、宇宙だよ。

全員（タケミナ、ミシマ、オクヤマ以外）、現れる。
それは冒頭のロケットと同じ構図。

ムトウ 間もなく出発します。シートベルトをお締めになって、お待ち下さい。

ロケットの発射音。その外側で。

ミシマ 久しぶり。

オクヤマ 元気みたいね。

ミシマ もしかして…、現れたのか？

オクヤマ （うなづく）

ミシマ もしかして、あいつも？

オクヤマ 乗ってるみたい。

ロケットの警告音。

ムトウ 乗客の皆さんは救命宇宙服を着用し、何かに掴まって下さい。間もなく当機は、限界を迎えます！

ミシマ 分かるかな。20年だぞ、また。

オクヤマ 気づいてもらえないかもね。

ミシマ …三度目の正直だ。上手くやれよ、スミヨシ。

爆発音。

散り散りになっていく乗客達。

泳ぐようにその瓦礫をかき分け、どこかに着地するサルタ。その目線の先に、タケミナがいる。

サルタ …助けに来たぞ。

タケミナ こっちこそ、…助けに来たぞ。

サルタ …ああ。

タケミナ さあ、やりなおしだ。

サルタ やりなおし？

タケミナ 行くぞ。

サルタ どこへ？

タケミナ 決まってるだろ。宇宙の果てだよ。

終。

【出典】太宰治『走れメロス』（筑摩書房 一九八八年）

